

はじめに

近年、グローバル化や情報化の進展とともに、社会が急激に変容する中で、子供たちを取り巻く環境も大きく変化し、それに伴い児童生徒の健康課題も多様化、複雑化しています。このような健康課題の解決を図るためにも、学校における健康教育は重要な役割を担っています。

また、新型コロナウイルス感染症への対応という、かつて経験したことのない事態に直面しています。学校現場にも大きな影響を与え、先生方におかれましては、日々目の前にいる子供たちへ御対応いただいていることと拝察いたします。

がんについては、生涯のうち二人に一人がかかるといわれる中、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は、まだまだ不十分であり課題であると指摘されております。この課題解決のためには、学校教育を通じて、がんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育成することが必要であります。

また、埼玉県がん対策推進条例が平成25年12月24日に公布・施行され、その中でも、学校において、がんの予防の推進を図るため、児童生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策が講じられ、学校における健康教育において、がんを取り上げた教育を推進することは、大変重要であると考えます。

さらに、平成29年3月に小学校及び中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領がそれぞれ改訂され、中学校及び高等学校においては、新たにがんについても取り扱うことが明記されたことから、新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発が必要となりました。

こうした中、埼玉県教育委員会では平成27年度から、文部科学省の委託事業を受け、「がん教育総合支援事業」を実施しております。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けた指導・助言をいただきながら、教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催いたしました。

本報告書は、「がん教育総合支援事業」における令和2年度の取組の概要や成果等についてまとめております。すべての学校において、掲載しております指導実践例等を活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、がん教育の充実が図られることを期待しております。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、一般社団法人埼玉県医師会、埼玉県公立小学校校長会、埼玉県中学校長会、埼玉県高等学校長協会、さらには授業を御提供くださいました上里町教育委員会、上里町立長幡小学校、川口市教育委員会、川口市立戸塚中学校、県立栗橋北彩高等学校をはじめ各関係機関、団体の皆様に深く感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。

令和3年2月

埼玉県教育局県立学校部参事兼保健体育課長
伊藤 治也

目 次

I 令和2年度埼玉県「がん教育総合支援事業」

1	趣旨	1
2	事業内容	1
3	実施内容	1
4	他部局・他機関との連携	3
5	事業の成果	3
6	課題	4
7	令和3年度の事業について	5

II 令和2年度埼玉県がん教育指導者研修会について… 7

III 令和2年度埼玉県がん教育授業研究会

1	上里町立長幡小学校	24
2	川口市立戸塚中学校	38
3	県立栗橋北彩高等学校	49

IV 令和2年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

1	がん教育推進連絡協議会設置要綱	59
2	がん教育推進連絡協議会委員名簿	61
3	がん教育授業検討委員会名簿	61

I 令和2年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」について

1 趣 旨

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「がん教育総合支援事業」を実施する。

学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について検討を行っていく。

2 事業内容

- (1) がん教育推進連絡協議会の開催
- (2) がん教育指導者研修会の開催
- (3) がん教育授業研究会の開催

3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るための「がん教育に関する計画」に対し指導・助言を行う。

ア 第1回協議会（がん教育の推進に向けた計画の検討）

日時 令和2年7月17日（金）午後2時30分～

会場 知事公館 中会議室

○令和2年度「がん教育総合支援事業」実施要項について

- ・がん教育推進連絡協議会について
- ・がん教育指導者研修会について
- ・がん教育授業研究会について

○がん教育における外部指導者の活用について

イ 第2回協議会（がん教育に関する計画の検証・成果報告）

日時 令和3年1月15日（金）午後2時30分～

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面会議とした。

- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 効果の検証

※ がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

- (2) がん教育指導者研修会について

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動ができる児童生徒を育成し、がん教育を推進していく。

教職員・外部指導者を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行う。

ア 日 時 令和2年10月13日(火)午後1時～
イ 会 場 さいたま市民会館うらわ ホール
ウ 対 象 県内公立小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教
職員、市町村教育委員会指導主事、外部指導者

エ 内 容

(ア) 行政説明 県教育局県立学校部保健体育課
(イ) 実践発表 令和元年度モデル校
小学校実践校 川越市立霞ヶ関小学校 山中 雄一 教諭
嶋田 恵美子 教諭
加藤 佳代 養護教諭
中学校実践校 深谷市立川本中学校 石山 絵理 教諭
朽原 若葉 養護教諭
高等学校実践校 県立志木高等学校 櫻田 和美 教諭
(ウ) 講 演『学校におけるがん教育について』
講師 埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀 理暁 氏

(3) がん教育授業研究会について

小学校、中学校、及び高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と授業モデルの普及と指導参考資料の作成を行う。

【テーマ】 「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」

【指導内容】 ア がんとは、がんの要因
イ がんの種類とその経過
ウ 我が国のがんの状況
エ がんの予防
オ がんの早期発見・がん検診
カ がんの治療法
キ がん治療における緩和ケア
ク がん患者の生活の質
ケ がん患者への理解と共生

ア 小学校授業研究会

(ア) 日 時 令和2年11月6日(金)
(イ) 参加者 近隣4市町公立小・中学校教職員等
(ウ) 会 場 上里町立長幡小学校
(エ) 授業者 矢内 里美 教諭
(オ) 題 材 特別活動「健康と命の大切さ」
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

イ 中学校授業研究会

(ア) 日 時 令和2年11月19日(木)
(イ) 参加者 指導者、来賓、学校関係者
(ウ) 会 場 川口市立戸塚中学校
(エ) 授業者 川俣 泰幸 教諭
(オ) 単 元 保健体育(保健分野)
「(1) 健康な生活と疾病の予防」
(ウ) 生活行動・生活習慣と健康

ウ 高等学校授業研究会

- (ア) 日時 令和2年10月23日(金)
(イ) 参加者 県内公立高等学校教職員
(ウ) 会場 県立栗橋北彩高等学校
(エ) 授業者 黒崎 直樹 教諭
(オ) 単元 保健体育(科目保健)
(1) 「現代社会と健康」
イ 健康の保持増進と疾病の予防
(ア) 生活習慣病と日常の生活行動

(4) 効果的な指導方法の実践研究

- ・発達の段階に応じた効果的ながんに関する指導を行うための指導方法の実践研究
(「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。)
- ・教科等横断的ながん教育の提案
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

4 他部局・他機関との連携

- (1) 保健医療部疾病対策課と連携し、「出前講座」及び「がん教育外部講師活用について」を実施した。
- (2) 埼玉県がん教育外部指導者研修会の開催
※例年2月に開催しているが、昨今の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、本年度は中止とした。
- (3) 埼玉医科大学総合医療センター SMCがん教育セミナー 後援
※例年8月に開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本年度は中止とした。

5 事業の成果

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

- ア がんに関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがんに関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践例や指導教材等の普及啓発ができた。
- イ 行政説明の中で、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付け例を挙げ、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。
- ウ 埼玉医科大学総合医療センター教授 儀賀 理暁 氏による講演『学校におけるがん教育について』により、学校における外部講師によるがん教育の考え方や進め方について、また儀賀先生の「教員と外部講師の役割の違いに気付いていただけなら。」との思いから、より実践的な内容のお話をいただき、理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

- ア 発達の段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、授業研究会で効果的な指導方法について提案できた。
- イ モデル校として新学習指導要領の全面実施に向けて、がん教育を進めることができるよう、保健体育の保健分野、科目保健で授業案を検討することができた。その結果、各学校での実践の参考となる指導案及びワークシート等の指導資料を作成することができた。
- ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。
- エ 小学校のモデル校では、児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について教科等横断的な視点から、体育科保健領域「病気の予防」と、総合的な学習の時間、特別活動を通して身に付けさせる授業計画で行った。授業の中で、校長先生がゲストティーチャーの役割を担い、実母をがんで亡くした経験について説話をを行った。
- オ 中学校のモデル校では、令和3年度の新学習指導要領全面実施に向けて、中学2年生で、本単元を扱った。がんについて正しく理解することや、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにするために、自分の考えを仲間の前で発表したり、他者の考えを聞いて共感する場面を設定したりすることによって、自分の考えや知識を深めることができた。事後指導としてがん専門医を外部講師として招き、自他の健康と命の大切さについて学ぶことができた。
事後指導を担当する外部講師が、公開授業も参観し、前時の学習の進捗を把握していたため、つながりのある指導を行うことができた。
- カ 高等学校のモデル校では、2時間扱いでがんに関する内容を扱った。1時間目はがんに関する基礎的・基本的な知識を一斉教授型の授業スタイルで習得させた。2時間目は、1時間目に学習した内容を踏まえ「がんは誰でも罹る可能性がある」ということをベースに予防に向けた話し合い活動を行い、大切な人への手紙を書くことで、今後にとるべき行動を考えさせることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

- ア 授業研究会の事後指導の中で、がん専門医等を外部講師として招き、授業を行ったことで、児童生徒の心に響く、効果的ながん教育を推進することができた。
- イ 本年度より新たに始めた「がん教育外部講師の活用について」では、県内小・中学校からの依頼があり、保健医療部疾病対策課と連携し、講師を派遣することができた。

6 課題

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

- ア 平成29年3月に小・中学校の新学習指導要領が、平成30年3月に新高等学校学習指導要領が改訂され、がんに関する内容が明確に示されたことから、学習指導要領全面実施、年次進行実施に向けてがん教育をすべての学校で指導していくことを周知する。
- イ がん教育の目標を達成するためには、保健体育の保健の学習では、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実施していくことが必要である。体育・保健体育の保

健の学習を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなるような取組を継続し、提案していくことが課題である。

ウ 指導方法については、小・中・高の系統性を踏まえ、どの学校でも取り組めるような指導計画及び資料の作成を研究していく。

(2) 外部講師の活用について

ア 保健医療部疾病対策課のがんに関する「出前講座」は、引き続き連携を取りながら協力していく。

イ 「保健」の授業で活用したい外部講師の選定・依頼・派遣については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制を構築している。昨年度同様、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。

ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」への参加を促していく。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、実際に授業を行う保健体育科教諭等に研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。また、参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

7 令和3年度の事業について

(1) がん教育推進連絡協議会の実施 (継続)

ア 日 時

(ア) 第1回 協議会 令和3年7月16日(金) ※予定

(イ) 第2回 協議会 令和4年1月14日(金) ※予定

イ 内 容

(ア) 本県のがん教育推進に向けた計画の検討

(イ) 本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

(2) がん教育指導者研修会の実施 (継続)

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア 日 時

令和3年9月15日(水)

イ 内 容

(ア) 行政説明

(イ) 実践事例発表

(小学校) 上里町立長幡小学校

(中学校) 川口市立戸塚中学校

(高等学校) 県立栗橋北彩高等学校

(ウ) 講 演

筑波大学 名誉教授 野津 有司 氏

演題 「未定」

(3) がん教育授業研究会の実施 (継続)

ア 指導内容について

(ア) がんについて正しく理解することができるようにする。

- ・保健体育(保健教育)の充実を図る。
- ・県の目標：学習指導要領完全実施までに保健体育の「保健」の授業で100%実施を目指す。

(イ) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

- ・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

(ウ) 授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ モデル校について

モデル校(市町村教育委員会)の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮し、実施していく。

(4) 外部講師の活用について

ア 医師・がん経験者等を対象とした「埼玉県がん教育外部指導者研修会」を開催する。その際、外部講師による授業の映像を見せるなど、より実践的な内容になるよう工夫する。また、開催をオンラインで行うことについても検討する。

イ 学校から、がん教育の外部講師の派遣依頼があった場合については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを整備する。また、現在疾病対策課で行っている講師の選定について、部分的に拠点病院へ移行していくことを検討する。

ウ がん教育授業研究会において、小・中・高等学校のいずれかの校種で、公開授業と外部講師による事後指導を組み合わせたモデル授業を実施する。

エ がん教育授業研究会や外部講師による事後指導について、がん拠点病院・指定病院の医師や、がん患者会、がん経験者が参加できるよう工夫する。

(5) 関係機関との連携

県教育委員会と医療機関が連携した研修会を次年度も計画していく。

ア 文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。

イ がん教育推進連絡協議会は、今年度と同様2回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については、各関係団体に依頼する。

II 令和2年度埼玉県がん教育指導者研修会

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和2年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが必要である。

学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

2 開催日時

令和2年10月13日（火） 午後1時15分から午後4時30分
（受付：午後1時～）

3 会 場

さいたま市民会館うらわ ホール
さいたま市浦和区仲町二丁目10-22
電話 048-822-7101

4 主 催

埼玉県教育委員会

5 参加対象者

- (1) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校において、がん教育を行う教員（体育・保健体育担当教職員等）
- (2) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に勤務する管理職及び教職員
- (3) 市町村教育委員会の指導主事等
- (4) 学校医等及び外部指導者（医療従事者、がん経験者等）

※本年度は、会場収容人員を半数にするため、参加人数を制限して行う。

6 日 程

13:00 13:15 13:20 13:35 14:35 14:45 16:15 16:25 16:30

受 付	開 会 行 事	行政説明 15分	実践事例発表 60分	休憩	講 演 90分	質 疑 応 答	閉 会 行 事
--------	------------------	-------------	---------------	----	------------	------------------	------------------

7 内 容

(1) 行政説明

県教育局県立学校部保健体育課

指導主事 猿橋 武司

(2) 実践事例発表

- ・ 小学校指導事例 第6学年 特別活動(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
「健康と命の大切さ」

川越市立霞ヶ関小学校 教 諭 山中 雄一

教 諭 嶋田 恵美子

養護教諭 加藤 佳代

- ・ 中学校指導事例 第3学年 保健体育（保健分野）

「健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康

深谷市立川本中学校 教 諭 石山 絵理

- ・ 高等学校指導事例 第1学年 保健体育（科目保健）

「現代社会と健康」 イ 健康の保持増進と疾病の予防

県立志木高等学校 教 諭 櫻田 和美

(3) 講 演

「学校におけるがん教育について」

講 師 埼玉医科大学総合医療センター

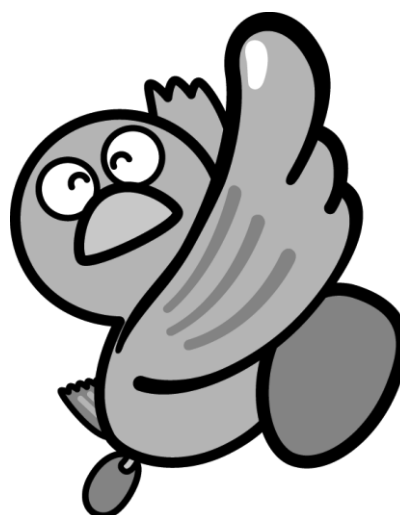
教授 儀賀 理暁 氏

<講演資料>

「学校におけるがん教育について」

講 師 埼玉医科大学総合医療センター

教授 儀賀 理暁 氏



今とこれからを生きる君たちへ ～改めて“学び”を問う～



定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

➤ 「がん教育」の在り方に関する検討会

自身について

日本は、いずれの項目においても9カ国の中で他の国に差をつけて最下位となった。

Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)
(※各設問「はい」回答者割合)

	自身を大人と思う	自分は責任が重い社会の一員と思う	将来の夢を持っている	自分で費やしたお金を貯蓄しようと思う	自分の国に誇りや自信がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本 (n=1000)	29.1%	44.6%	60.1%	18.5%	46.4%	27.2%
インド (n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア (n=1000)	79.4%	88.9%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国 (n=1000)	40.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
オーストラリア (n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国 (n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス (n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ (n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ (n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

5

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

57.1

47%

“The future of Employment”

C.B.Frey and M.A.Osborne 2013

10~20年後になくなる職業	
電話販売員	
不動産登記の審査・調査	
手縫いの仕立て屋	
コンピューターを使うデータの収集・加工・分析	
保険業者	
時計修理工	
貨物取扱人	
税務申告代行者	
フィルム写真の現像技術者	
銀行の新規口座開設担当者	

人工知能ワトソン、がん診断支援 8割で有用な情報提供
～朝日新聞デジタル 2016年9月18日18時11分～

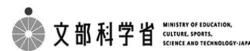
- 米IBMの人工知能「ワトソン」をがん患者の診断支援に使った東大医科学研究所の研究で、8割近くの症例で診断や治療に役立つ情報を提示したとの研究成果がまとまった。がんの原因となっている遺伝子変異を10分程度で特定し、適切な抗がん剤の処方につながったケースも。。。

マンモグラフィーも

- 2万5000人以上の英国女性と3000人以上の米国女性の画像を用いて検証したところ、専門医と比べて偽陽性が米国では5.7%、英国では1.2%減った
- 6人の放射線科医を対象とした実験では、AIシステムは全ての放射線科医よりも高精度で判定をした

～Nature. Vol 577. 2020～

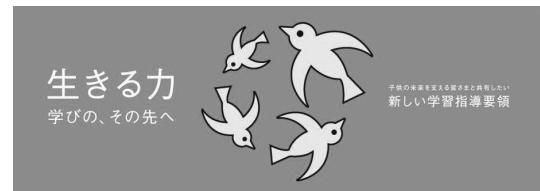
♪ *overture* ♪



主体的・対話的で深い学び

学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。
新しい学習指導要領、スタート。

小学校：2020年度～
中学校：2021年度～
高等学校：2022年度～

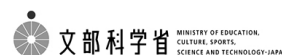
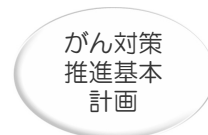


第3期がん対策推進基本計画

(平成30年3月9日閣議決定)

第2 分野別施策

1. がん予防
2. がん医療の充実
3. がんとの共生
4. これらを支える基盤の整備
 - (1) がん研究
 - (2) 人材育成
 - (3) がん教育、普及啓発



(がんと) 命の授業

- 個別対応
- 小、中、高、大学 平成17年度～
- 埼玉県の事業への参画
- がん教育出前講座 平成25年度～
- がんの教育総合支援事業 平成27年度～
- 埼玉医科大学として主宰
- (教員向け) がん教育セミナー 平成28年度～
- 国立大学法人埼玉大学教育学部との連携
- 養護教諭養成課程 臨床医学概説 平成28年度～

solo

duet

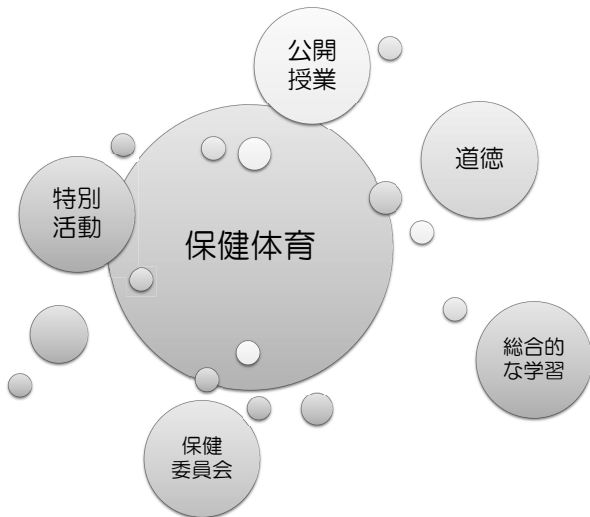
一緒に演奏しません？

concerto

improvisation

カリキュラム・マネジメント

- 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと



♪ 第一楽章 ♪

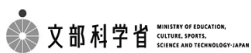


今とこれからを生きる君たちへ

- いのちは奇跡
- がんを防ぐチャンスは日常生活の中に
- がん ≠ 死
- いのちに限りはあるけれど・・・



* 医療者が教壇に立つ意義とは, 日本乳癌検診学会誌, Vol.28 No.2, 2019
 * 今とこれからを生きる君たちへ, 医学の歩み, Vol.267 No.6, 2018
 * あのね、かなちゃんに聞いてほしいことがあるの, 日本医事新報社, 2017



がん教育推進のための教材 指導参考資料

がん教育を実施する際の参考資料となるよう、文部科学省において作成した「がん教育推進のための教材」に対応したスライド資料を作成しました。

がん教育推進のための教材 指導参考資料

- * 小学校版
- * 中学校・高等学校版

教師用指導参考資料付き (▶◀) > < ◉。 ◆♡

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm

♪ 第二楽章 ♪

- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒等がいる場合。
- 家族にがん患者がいる児童生徒等や、家族をがんで亡くした児童生徒等がいる場合。
- 生活習慣が主な原因とならないがんもあることから、特に、これらのがん患者が身近にいる場合。
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒等や、家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒等がいる場合。

- 「がん教育」の在り方に関する検討会 平成 27 年 3 月

- 事故で家族を失った生徒がいても、交通安全に関する教育を止めることはありません。水難事故で友人を失った生徒がいても、夏になれば水泳の授業があります。僕たちはそうやって子供たちと一緒に実践を積み重ねてきました。だから、（がん教育も）きっといいものを創ってゆけると信じています

- 三郷市立早稲田中学校 主幹教諭 菅野 恒典

♪ 第三楽章 ♪

学びとは？

誰が何をどの様に学ぶのか

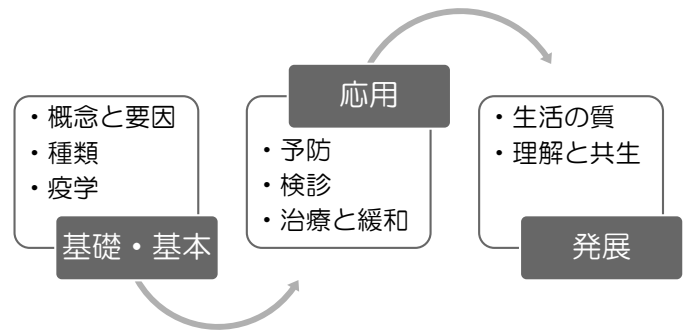
誰が何をどの様に学ぶのか

がん教育の具体的な内容

- がんとは
- がんの種類
- 我が国のがんの状況
- がんの予防
- がんの早期発見・がん検診
- がんの治療法
- がん治療における緩和ケア
- がん患者の生活の質
- がん患者への理解と共生

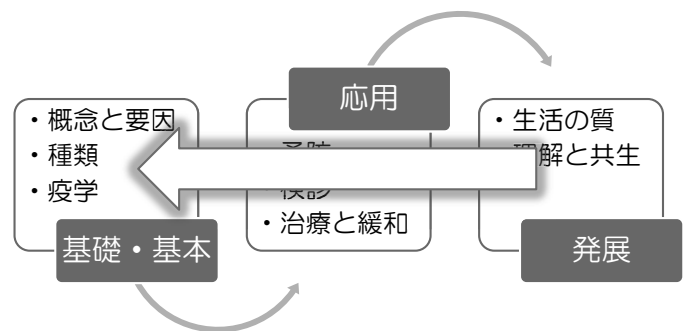


陥りやすいのは・・・

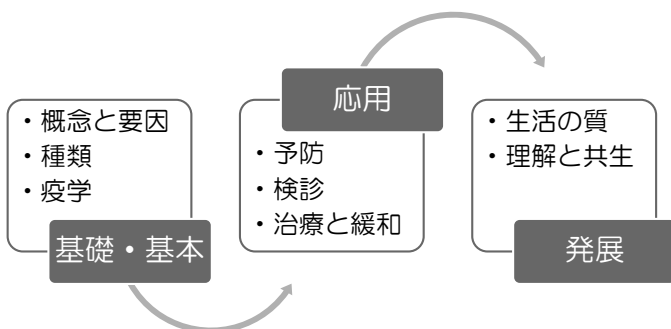


誰が何をどの様に学ぶのか

具体から抽象を学び・・・



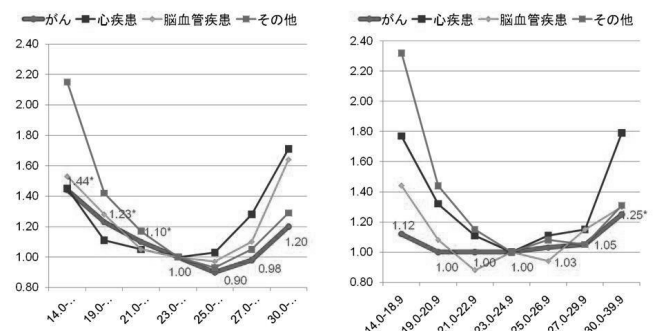
具体から抽象を学び・・・再度挑戦する



がん死亡、心疾患死亡、脳血管疾患死亡、その他

男性16万人(平均11年追跡)

女性19万人(平均13年追跡)

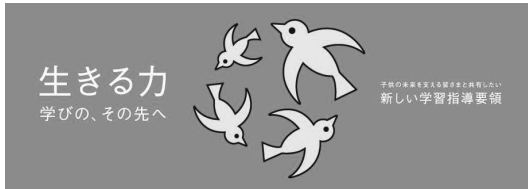


Journal of Epidemiology. Vol. 21 (2011) Issue 6

主体的・対話的で深い学び

学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。
新しい学習指導要領、スタート。

小学校：2020年度～
中学校：2021年度～
高等学校：2022年度～



- 小中学校で習った基礎的な知識を生かし、高等学校においては、その先の「がんにかかった後も人生は続いていく」ということを重点的に授業を実施する必要があると考える

– 埼玉県立川越南高等学校 根岸 怜子

♪ 第四楽章 ♪

誰が何をどの様に **なぜ学ぶのか**

今とこれからを

- がんは目に見えることだけではなく見えないところも苦しいんだな・・・
- がんで亡くなったおじいちゃんが、自分たちに笑ってくれていた気持ちが少し分かった気がする

生きる君たちへ

- 家族にもがんの話や命の話をしてほしいけれど、自分に子どもができた時にも子どもと同じ話ができればいいなと思います
- 将来将来と思い過ぎて、今の自分の希望を見失ってしまいがちだから、せっかくこの世にたった一人の命として生まれてきた自分を大切に自分にしかできない一度きりの一生を歩んでいこうと思う

未来の大切な自分

定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

➤ 「がん教育」の在り方に関する検討会

数字や統計は真実を明らかにするうえで必要な素晴らしい道具だが、人の信念を変えるには不十分だし、行動を促す力はほぼ皆無と言っていい。(中略)むしろ、私たちの信念を形作っているのは欲求だ。だとすれば、意欲や感情を利用しない限り、相手も自分も考えを変えることはないだろう。

Tali Sharot

Dept. of Experimental Psychology, University College London

finale

①～⑥の語を並べて、適切な文を作れ

Maiko: Did you walk to Mary's house from here in this hot weather?

Henry: Yes, I was very thirsty when I arrived. So () () () () () () drink.

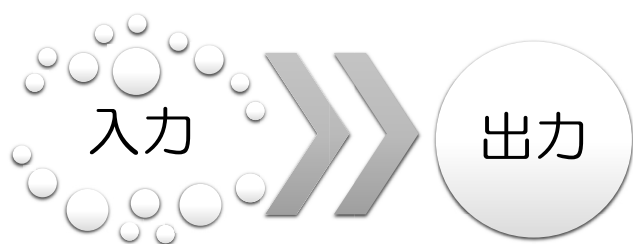
①asked ②cold ③for ④I ⑤something ⑥to

2014年 センター模試

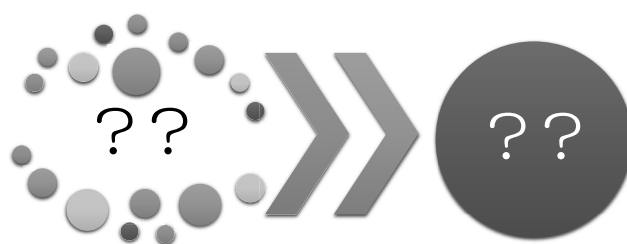
“（一般）常識”はない

Hey Siri、浦和の美味しい
うなぎ屋は？

“判断” はできない



論理・確率・統計



答えなどどこにもない
誰も教えてくれない ♪♪

答え

応え

“The future of Employment”

C.B.Frey and M.A.Osborne 2013

10～20年後になくなる職業	10～20年後まで残る職業
電話販売員	レクリエーション療法士
不動産登記の審査・調査	整備・設置・修理の第一線監督者
手縫いの仕立て屋	危険管理責任者
コンピューターを使うデータの収集・加工・分析	メンタルヘルス・薬物関連ソーシャルワーカー
保険業者	聴覚訓練士
時計修理工	作業療法士
貨物取扱人	歯科矯正士・義歯技工士
税務申告代行者	医療ソーシャルワーカー
フィルム写真の現像技術者	口腔外科医
銀行の新規口座開設担当者	消防・防災の第一線監督者

学校の役割

- ①文化（知識）の継承
- ②訳のわからないことを一緒に考えて過ごす

昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和先生

♪ encore ♪

具体的かつ文脈ある出来事

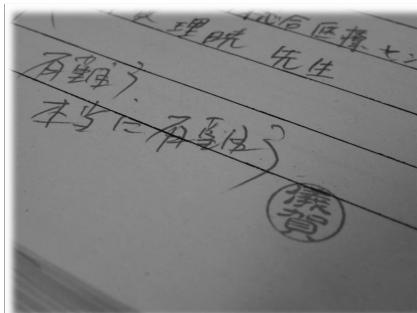


深みのある学びへと誘う

教育基本法 第1条

～教育の目的～

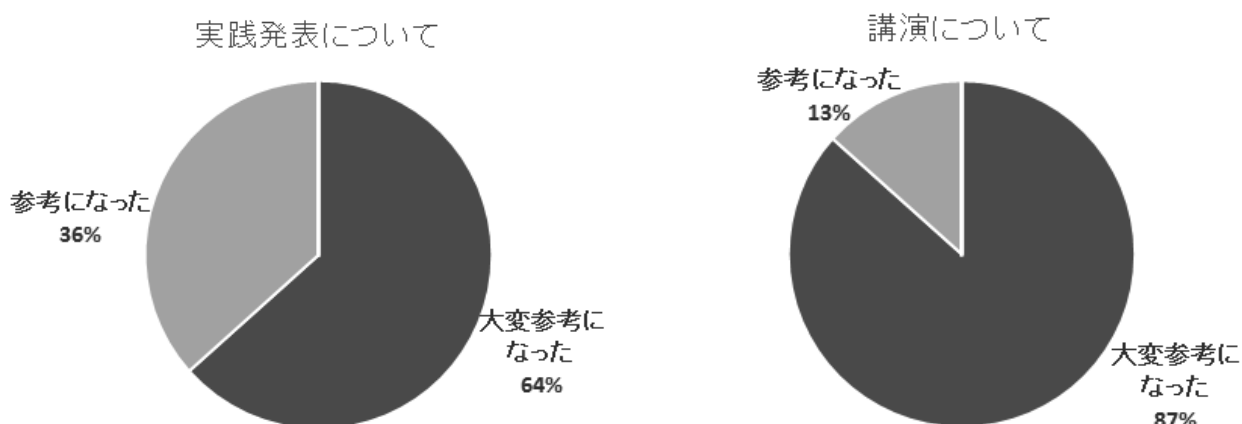
教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家および社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。



子供の教育は、過去の価値の伝達ではなく、
未来の新しい価値の創造にある。

～ John Dewey ～

令和2年度がん教育指導者研修会アンケート結果



<実践発表について>

- ・計画段階からの取組を聞くことができ、自校での実施の参考になった。
- ・授業の展開だけでなく、自分自身のがんへの理解が深まった。
- ・どの校種の実践も工夫されていて、子供たちの学びが深いものになっていると思う。
- ・正しい知識を児童生徒に身に付けさせたいと思った。
- ・実践例はすぐに使えるものばかりで持ち帰って活用していきたいと思った。
- ・発達段階に合わせた実践や養護教諭とのT Tや、外部講師の活用について参考になった。
- ・がんは他人事ではなく自分もかかるという前提の下で、がんとどのように向き合えばよいかと学べる実践だった。
- ・小学校ではどの時間に誰がどこまで教えるのかを悩んでいたのが、参考になった。
- ・文部科学省の教材はすぐに活用できると思った。
- ・負担に感じず、子供たちの未来のためにやってみることが大事であると感じた。
- ・子供の考えを引き出す発問が参考になった。
- ・指導者研修の内容を担当や教科担当にも伝えていく必要があると思った。
- ・ワークシートや授業の進め方等、参考になった。
- ・教科等横断的にカリキュラムを組むことで、時数を確保し、深い学習ができると感じた。
- ・小・中・高校での系統的な指導について理解することができた。
- ・実際のがんを体験された方から直接話を伺えることは貴重だと思う。
- ・発表者の思いが詰まった実践発表であった。
- ・県立図書館のウェブサイトもチェックして指導に生かしていきたい。
- ・外部講師ありきではなく、授業としてしっかり取り組んでいく大切さを感じた。
- ・授業で使用した資料や情報源を聞くことができたので調べてみたい。
- ・実際に授業をしたあとの生徒の変容を聞くことができ、参考になった。
- ・埼玉県内でこれだけの実践が行われていたことを知らなかったのが参考にした。

- ・すぐに活用できる資料やスライドがあると聞いて、がん教育に対するハードルが下がった。
- ・養護教諭の授業へのかかわり方が参考になった。
- ・他校種の授業実践を知ることができて勉強になった。
- ・国や県から出ている資料に良いものがあり、それらを活用するとある程度の内容が確保できることがわかった。
- ・小・中・高でどのようながん教育が行われているのか伺うことができて勉強になった。

【医療関係者】

- ・子供たちにどういう授業をしているのか、実際の報告を聞いてすごいなと思った。こういう授業が増えることで子供たちも病気について考えるきっかけになると思った。

【医療関係者】

- ・小・中・高で内容も吟味されており、興味深かった。体験者の声は必ずしも必要ではないと思うが、体験者だからこそ語れる何かもあると思った。

【がん経験者】

- ・先生方が熱心に授業に向き合う姿勢がよく分かった。子供たちが興味をもつポイントなどもわかり、参考になった。

【医療関係者】

- ・各学校で細かく準備をされ、詳細な内容まで教育をされていることに大変驚いた。しかし、医学的にやや誤った内容の説明も含まれていたため、少し気になった。【医療従事者】

<講演について>

- ・具体例から基礎に落とし込むという説明なので、とても分かりやすく「がん」から発展してここまで扱われる先生はいないと思った。
- ・あっという間の90分だった。今自分の中で感じたことを大切に、子供たちと学びや考えを深められたらと思う。
- ・医療の立場の先生は、「予防」だけでなく「がんになった後も続いていく人生」についてお話してくれ、貴重な機会となった。
- ・たくさんの実践に裏付けられた重みのある言葉が胸に響いた。
- ・がん関係者と連携を図ることが深い学びにつながると実感した。学びや発見、感動がたくさんあった講演だった。
- ・がん教育は、がんに関する基礎的な知識を中心に教えていくものだと思っていたが、命の大切さを教えていく大切な学習なのだとわかった。授業の進め方等具体的で大変勉強させていただいた。
- ・私たちの役割は何なのかを考えさせられる講演だった。命ある限り自分の生き方に誇りを持ち、周りの人の人生の一端を担う立場として明日から教壇に立ちたいと思う。
- ・先生の話は、がん教育のみならず、今の子供たちとの関わり方を考えさせていただいた。このような話を聞くとすぐに現場で実践したいという思いになる。
- ・先生の「生の声」の持つ力のすごさは本当にその通りだと思う。具体から抽象へという学びのながれについて興味深く説得力があった。
- ・子供たちにじゅうたんを差し出せるような教員になりたいと思った。

- ・がんに関して専門的な知識がある先生の話聞くことによって、新しい視点で教育に活かせると思った。今日の講演を聞いて、授業に対するモチベーションが上がった。
- ・実現可能な方法だと思った。先生の想いが詰まった話、明日からの仕事、子供たちに会うのが楽しみになった。
- ・がん教育を学校で行っていくために、専門家やがん経験者の方をどのように授業に取り入れていくのか大変参考になった。さらに、教員のがん教育に対する意識も変えていかなければならないと感じた。
- ・がんの予防＝生活習慣病の予防という考えに疑問を抱いていた。先生のお話を聞き、がん患者やその家族が、そこにいて当たり前という言葉が胸に響いた。がん教育について必要以上に臆することなく、生きるための学習として取り組んでいきたいと思う。
- ・儀賀先生の講演を聞いて、今後ポジティブに生活していく勇気をいただいた。

【がん経験者】

- ・子供たちの無限の可能性を信じ、子供たちと一緒に作り上げていく命の授業にしていけたら良いと思う。学校の先生の日常にお邪魔させていただく立場で協力したい。

【医療従事者】

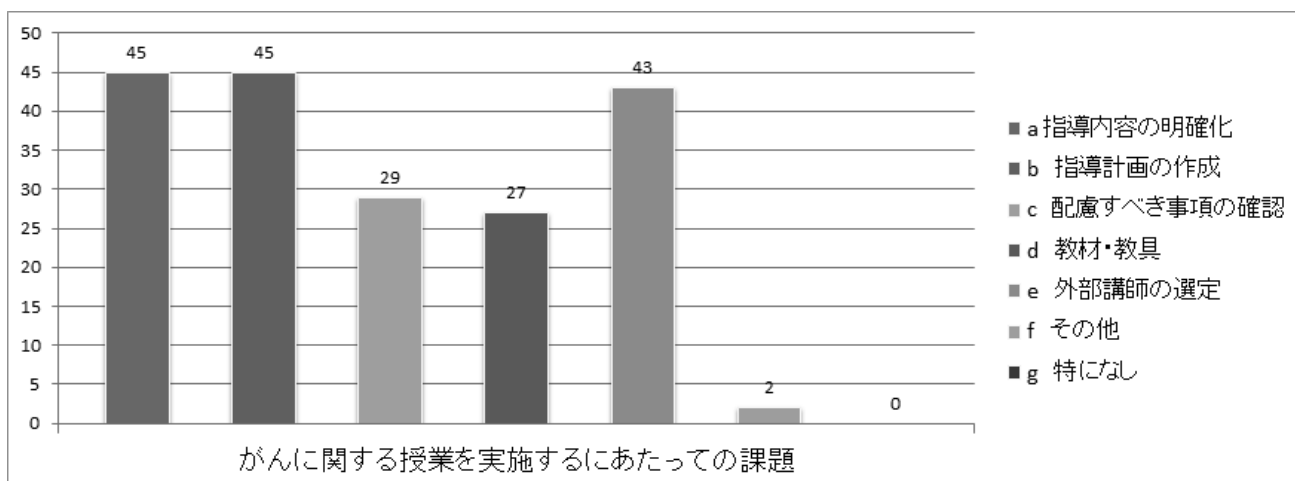
- ・患者さんの事例とエピソードがスムーズに心の中に落ちてきた。がんが身近な疾患のように感じるようになってきた。

【学校薬剤師】

- ・素晴らしい心に染みる話だった。広い視野、見方・考え方の必要性を感じることができた。

【患者団体】

＜これから、学校においてがんに関する授業を実施するにあたり、課題と思われることはどのようなことですか。＞



その他の記述

- ・時数の確保

Ⅲ 令和2年度埼玉県がん教育授業研究会

1 上里町立長幡小学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和2年度埼玉県「がん教育」授業研究会(小学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和2年11月6日(金)

4 会 場 上里町立長幡小学校
児玉郡上里町藤木戸145番地

5 参加対象者 小・中学校教職員(教諭、養護教諭、保健主事等)及び指導主事

6 日 程

- | | | |
|----------|-----------------|-------|
| (1) 受付 | 午後1時10分～ | (体育館) |
| (2) 全体会 | 午後1時30分～午後1時50分 | (体育館) |
| (3) 公開授業 | 午後2時00分～午後2時45分 | (体育館) |
| (4) 研究協議 | 午後3時05分～午後4時30分 | (体育館) |

7 公開授業

学年	授業者	題 材
6年	矢内 里美 教諭	特別活動 「健康と命の大切さ」 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	参事兼課長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	新井 克仁
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	猿橋 武司
埼玉県教育局北部教育事務所	指導主事	阿久津広真
上里町教育委員会学校教育指導室	指導主事	櫻井 達夫

○埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准教授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教授	儀賀 理暁
深谷市立深谷西小学校	教諭	栗田 顕
所沢市立安松小学校	養護教諭	小林 牧葉
県立けやき特別支援学校	養護教諭	川端 奏子

第6学年1組 学級活動（2）指導案

令和2年11月6日（金） 第5校時
場 所 体 育 館
指 導 者 矢 内 里 美

- 1 題材名『健康と命の大切さ』（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 児童の実態と題材設定の理由

（1）児童の実態

児童はこれまでに、体育科保健領域の学習「病気の予防」において、病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こること、その予防のために、適切な運動、食事、休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高めておく必要があることを学習してきた。また、病気によって、それぞれ予防の仕方が異なってくることも学んできている。さらに、日本人の死因第1位である「がん」についても、「小学校版がん教育プログラム(文部科学省)」を活用したり、調べ学習をしたり、学級内で意見交換したりすることを通して、理解を深めてきた。

事前アンケートの結果からは、健康な生活を送るためには、がんについての学習が重要であると考えている児童が多くいることがわかる。また「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」との問いに86%の児童が「正しい」と答えており、がんについてある程度の知識をもっていることがわかった。しかし、自分はがんにならないと約半数の児童が答え、「がんになっても生活の質を高めることができる。」の問いには、半数以上の児童が、「どちらかといえばそう思わない。」「そう思わない。」と答えている。また、保健の学習をする前の児童は、「がんは日本人の死因の第2位である。」の問いに対して5割以上の児童が誤った回答をしていた。このことから、がんを身近な問題としてとらえている児童が少ないといえる。

本学級の児童は、日頃から男女仲良くグループで学習を進めることができることから、これまで自分事として考えていなかった本題材においても、活発な話し合い活動などを通して一人一人が「がん」を身近な問題として捉え、健康と命の大切さについて主体的に考え、「がん」について正しく理解できるようになることが期待できる。

事前のアンケートの詳しい結果は、以下の通りである。

事前アンケート（記述式）

令和2年6月実施 21名

○あなたが「がんについて知っていること」を書いてみましょう。

- ・がんという病気が「命に危険のある治せない病気である」と考えている児童が52%と多い。
- ・がんには様々な種類がある事を知っている児童が76%とほとんどの児童が知っている。
- ・がんの要因として、「たばこを吸う」をあげている児童が43%と約半数である。
- ・がんという病気について「知らない」と答えた児童が1名いた。

令和2年7月実施 21名

- （1）がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください

	質問	そう思う	どちらかと いえば そう思う	どちらかと いえば そう思わない	そう 思わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	81%	19%	0%	0%
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	76%	24%	0%	0%

(2) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	正しい	誤り
a	(ア) がんは、誰もがかかる可能性のある病気である。	86%	14%
b	(イ) がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	95%	5%
c	(ウ) がんは日本人の死因の第2位である。	57%	43%
d	(エ) たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	81%	19%
e	(オ) 早期発見すれば、がんは治りやすい。	81%	19%
f	(オ) 体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	24%	76%
g	(カ) がんの治療法には手術治療しかない。	10%	90%
h	(キ) がんの痛みは我慢するしかない。	24%	76%

(3) がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	質問	そう思う	どちらかと いえば そう思う	どちらかと いえば そう思わない	そう 思わない
a	(ア) 自分はがんにならないと思う。	19%	24%	29%	28%
b	(エ) 将来、たばこは吸わないでいようと思う。	91%	0%	0%	9%
c	(エ) 日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康なからだづくりに取り組もうと思う。	86%	9%	5%	0%
d	(オ) がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	67%	24%	5%	4%
e	(カ) がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	43%	38%	9%	10%
f	(ク) がんになっても生活の質を高めることができる。	24%	24%	19%	33%
g	(ケ) がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい。	81%	14%	5%	0%
h	(コ) がんと健康について、まずは身近な家族から話そうと思う。	57%	33%	5%	5%
i	(コ) 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	100%	0%	0%	0%
j	(コ) 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	95%	5%	0%	0%

(2) 題材設定の理由

1981年より日本人の死因の第1位はがんであり、生涯でがんに罹患する確率は、男性65.5%、女性50.2%に達している。今日においては、日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなるといわれている。こうしたことから、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。

わが国では、「がん対策基本法(平成18年法律第98号)」が2006年に成立し、翌2007年4月から施行され、10年後の2016年12月に改正・施行された。その第6条には国民の責務として「国民は、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣が健康に及ぼす影響、がんの原因となるおそれのある感染症等がんに関する正しい知識を持ち、がんの予防に必要な注意を払い、必要に応じ、がん検診を受けるよう努めるほか、がん患者に関する理解を深めるよう努めなければならない。」とされ、国民の責務としてのがんの正しい知識習得、がん予防、がん検診に努めることが法律で規定されている。その「がん対策基本法」のもと、がん対策推進基本計画が策定されており、その中には「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」が位置づけられている。その中に、「健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んでいる。しかし、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は不十分である」と指摘されている現状もある。

このようなことから、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、がんを正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになることを考えた。そして、他の様々な病気の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る上でも意義のある内容であると捉え、本題材を設定した。

(3) 本題材の指導

本題材では、児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について教科等横断的な視点から、体育科保健領域と総合的な学習の時間、特別活動を通して身に付けさせていきたいと考える。がんに対する科学的根拠に基づいた理解については、中学校・高等学校で専門的に扱うのが望ましいと考え、小学校段階では、がんに対する基礎的な知識(原因、予防、早期発見、検診等)の理解に絞って学習し、健康と命の大切さについて主体的に考える児童の育成を目指す。また、家族にがん患者がいる児童や身近な人をがんで亡くしている児童の実態を考慮して、養護教諭や学年の先生方と連携し、児童への配慮を慎重に行っていく。

事後指導では、意思決定したことの実践と振り返りを行う。児童が目標実現に向けて取り組む姿を認め、励まし、成果をあげることができるように指導する。

3 評価規準

(体育科保健領域)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合って起こることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。	① 病気の原因について、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などの要因に分類して考え、説明している。	① 病気の予防に関心をもち、学習したことをもとに自分の生活を振り返るなど、進んで学習活動に取り組もうとしている。

<p>② 感染症の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③ 生活習慣病を予防するには、運動、食事、睡眠などについて、健康にいい生活習慣を身に付ける必要があることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>	<p>② 感染症の予防のために考えたり選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由を挙げて説明している。</p> <p>③ むし歯や歯周病を予防する方法について具体的に考え、説明している。</p>	
---	--	--

(総合的な学習の時間)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① がんは早期に発見し、適切に治療することが大切であることや、よい生活習慣を身に付けることで予防できることを理解している。</p> <p>② がんについて書かれた本等の資料を調べることを通して収集した情報を基に図表や文章でまとめたりする方法が分かっている。</p>	<p>① 課題を解決するためにがんに関する必要な情報について収集している。</p> <p>② がんについて調べた情報を基に、友達の考えと比較したり、図表や文章で整理して分析したりしている。</p> <p>③ がんについて調べたり、まとめたりしたことを相手や目的に応じた方法で表現している。</p>	<p>① 自分や家族の健康の保持増進に向け、進んでがんについて調べ、自分にできることを考えようとしている。</p> <p>② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、友達と協力して学び合おうとしている。</p>

(学級活動)

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<p>日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。</p>	<p>日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。</p>	<p>自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合っよりよい人間関係を形成しようとしている。</p>

4 事前の指導

日付	主な活動	○指導上の留意点	☆評価の観点
7月下旬	・アンケート調査	○結果を集計、分析し、児童の実態を把握するとともに	

		に、指導計画作成に生かす。	
10/9 ～ 11/2	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科（保健領域） 1/4～4/4時間 ・総合的な学習の時間 1/3～3/3時間 ・病気の起こり方や予防の仕方、生活習慣病について学習する。 ・がんについて学習する。 	<p>○がんが死亡原因の1位であることや、2人に1人ががんになる可能性があることを確認するとともに、がんについて正しく知ることが重要であることを実感させる。</p>	<p>☆病気を予防するには、よい生活習慣を身に付けることが大切だと理解している。 【知識・技能】</p> <p>☆がんについて正しく知ることが、自他の健康を保持することにつながると考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

5 単元の指導と評価の計画（全8時間 保健4時間+総合的な学習の時間3時間+学級活動1時間）

本時は○印

（保健領域）

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1	<p>I ねらい</p> <p>○病気は、病原体、体の抵抗力、生活のしかた、環境などが関わり合って起こることを理解することができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①かぜをひいた時、体にどんなことが起こるか、経験を振り返る。</p> <p>②どんな時にかぜをひくのか、自分や家族が風邪をひいた時のことを思い出して、発表する。</p> <p>③児童から出てきた意見や、教科書の絵をもとに、かぜは色々な原因が重なって起こることを整理する。</p> <p>④かぜ以外の病気の原因を、教科書を参考にして調べる。</p> <p>⑤どんな時に病気が起こるかを話し合う。</p> <p>⑥調べたり、話し合ったりしたことをもとにして、病気の起こり方についてまとめる。</p>				
病気の起こり方	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合って起こること </div>	①	①		発表 ワークシート

<p>2</p> <p>病原体と病気の</p>	<p>I ねらい</p> <p>○病原体がもとになって起こる病気は、病原体の発生源をなくす、病原体のうつる道筋を断ち切る、体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解することができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①感染症の名称が書かれた一覧表を見ながら、聞いたことのある感染症をチェックする。</p> <p>②インフルエンザなどの感染経路について調べる。</p> <p>③ノロウイルス感染症などの感染経路について調べる。</p> <p>④病原体にはたくさんの種類があり、感染の仕方や、感染症の症状はさまざまであることを知る。</p> <p>⑤感染症の予防について、普段気をつけていることや、知っていることを発表する。</p> <p>⑥教科書を参考に感染症の予防の仕方を分類していく。</p> <p>⑦参考にした感染症の予防の仕方について、なぜそのような対応をするのか、理由を考える。</p> <p>⑧感染症の予防についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原体がもとになって起こる病気の感染経路を理解し、その予防には「病原体の発生源をなくす」「病原体のうつる道筋を断ち切る」「体の抵抗力を高める」などがあること </div>	<p>②</p>	<p>②</p>		<p>発表</p> <p>ワークシート</p>
<p>3</p> <p>生活のしかた病気の</p>	<p>I ねらい</p> <p>○糖分・脂肪分・塩分のとりすぎや運動不足、ストレス、喫煙など健康によくない生活の積み重ねは、生活習慣病を引き起こすことを理解することができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①自分の日頃の生活習慣についてチェックし、生活習慣の課題やよい点について振り返る。</p> <p>②死亡原因を示すグラフから、死因の上位を生活習慣病が占めていることを読み取る。</p> <p>③生活習慣病である心臓病や脳卒中は、どのようにして起こるのか調べる。</p> <p>④健康によい生活習慣について、食事、運動、休養・睡眠のそれぞれの観点でまとめる。</p> <p>⑤健康によい生活習慣について、自分がこれから実行していきたいことについて発表する。</p>	<p>③</p>	<p>③</p>	<p>①</p>	<p>ワークシート</p> <p>発表</p>

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病を予防するためには、バランスのよい食事、適度な運動、十分な休養・睡眠に気を配り、健康によい生活習慣を身に付けることが必要であること。 ・日本人の死因の1位が「がん」であることや生活習慣などが原因で「がん」にかかるということ </div>				
4	<p>I ねらい</p> <p>○むし歯や歯周病を予防するためには、口の中を清潔にしておくことなど望ましい生活習慣を身に付けることが必要なことを理解することができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①むし歯になった時の経験について発表する。</p> <p>②養護教諭から長幡小のむし歯の実態について聞く。</p> <p>③むし歯がどのようにして起こるのか調べる。</p> <p>④歯周病がどのようにして進むのか調べる。</p> <p>⑤二人の子どもの1日の生活について比較し、「生活のしかたと口の中の状態」から、むし歯になりやすい行動について考え発表する。</p> <p>⑤むし歯や歯周病を予防するためにはどうしたらよいか生活習慣の観点でまとめる。</p> <p>⑥ゲストティーチャー（養護教諭）に、よりよい歯みがきの仕方について話を聞く。</p> <p>⑦自分の生活を振り返り、むし歯や歯周病を防ぐためには、どこを改善すればよいのか考え、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯や歯周病を予防するには、口腔の衛生を保つなど口の中を清潔にしておくことが必要であること </div>			③	発表

(総合的な学習の時間)

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
1	<p>I ねらい</p> <p>○「がん」についての正しい知識、「予防できること」「早期発見によって治癒する可能性が高いこと」を理解することができる。</p> <p>○がん患者による「がんを経験したことによる『生きる』ことへの思い」や、「がんと向き合いながら生き生きとした日常生活を送る」ことを中心とした「健康と命の大切さ」について考えることができる。</p>				

3 がん教育	<p>I ねらい</p> <p>○「がん」の予防の方法について、自分の生活に役立つ知識を身に付けることができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①第6時で意見交換したグループ毎に、クラス全体に伝えたことをまとめる。</p> <p>②グループ毎に発表する。</p> <p>③グループ毎に質疑応答し、がんに対する理解を深める。</p> <p>④友達の発表を聞いて、学んだことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは、生活習慣をととのえる『予防』と検診などによる『早期発見』が重要であること ・自分や大切な人ががんになったとき、自分にもできることがあるということ </div>	① ②	③	②	発表 発表 ワークシート
-----------	--	--------	---	---	--------------------

(学級活動)

時	学習のねらい・活動	知	思	態	評価方法
① 健康と命の大切さ	<p>I ねらい</p> <p>○がんやがんをとりまく状況を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付け、自分にできることを考えることができる。</p> <p>II 学習活動</p> <p>①これまで学習してきた体育科保健領域の学習内容を確認する。</p> <p>②がんに対するアンケートの結果からがんに対するイメージを確認する。</p> <p>③第7時までにはがんについて調べてきたことを発表し合う。</p> <p>④上里町の現状（町として実施しているがん検診の種類、男女別、年代別受診者数、生活習慣病予防のための健康教育事業等）から、よりよく課題を解決するために自分ができるところを考える。</p> <p>⑤健全な生活を送るためにできることを話し合う。</p> <p>⑥健全な生活を送るために自分にできることをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんを予防・早期発見するために自分にできることを考えることができること ・自分自身や家族の健康のためにできることを考え、将来にわたって取り組むことを考えることができること </div>	○	○	○	ワークシート ワークシート 発表

6 本時の学習と指導 (1/1)

(1) ねらい

がんや、がんをとりまく状況を理解し、自他の健康のためにできることを考えている。

(2) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (指導○ 評価☆ 学び合いの視点※)	資料等
<p>導入 (つかむ)</p> <p>3分</p>	<p>1 これまで学習してきたことを確認する。</p> <div data-bbox="319 582 762 835" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは、誰でもなる可能性がある。 ・早期発見により、治ることもある。 ・健康的な生活習慣による『予防』と定期検診による『早期発見』が重要である。 </div> <p>2 本時のねらいを知る。</p> <div data-bbox="328 931 1284 994" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>がんについての理解を深め、自分にできることを考えよう。</p> </div>	<p>○がんについて今まで学んできたことを確認するとともに、前時までにグループでテーマ毎に調べてきたことを確認し、本時の学習につなげる。</p> <p>○一人一人が意見を伝え合うことで、がんについての理解が深まることを意識させる。</p>	<p>アンケート 黒板用短冊</p>
<p>展開 (さぐる・見つける)</p> <p>30分</p>	<p>3 それぞれのグループで調べたことを発表する。</p> <div data-bbox="295 1160 762 1545" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>テーマの例</p> <p>(1) がんの種類とその経過</p> <p>(2) がんの状況 (死亡率・治癒率)</p> <p>(3) がんの予防</p> <p>(4) がん検診</p> <p>(5) がんの治療法</p> </div> <div data-bbox="295 1608 774 2016" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>児童の反応例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60代以上になると、受診者数が増える。 ・いろいろな種類のがん検診がある。 ・上里町では、様々な健康教育事业が行われている。 </div>	<p>○児童が前時までに調べたことを発表させることで、意欲を持たせる。</p> <p>○上里町の現状(がん検診の種類、男女別、年代別受診者数、生活習慣病予防のための健康教育事业)も紹介することで、身近な問題として捉えられるようにする。</p> <p>○気付いたことを全体で共有することで、話し合うことを焦点化させる。</p> <div data-bbox="802 1686 1273 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈話し合いの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診者数が少ない。 ・がんについて正しく知る。 ・健康的な生活習慣を身に付ける。 </div> <p>☆がんや、がんをとりまく状況を理解している。</p>	<p>発表用 ポスター</p> <p>表、グラフ</p> <p>ワークシート</p>

	<p>4 現状をよりよくするために、自分たちができる解決策を話し合い、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>児童の反応例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に、がん検診を受けているかどうかを聞き、早期発見の大切さについて話し合う。 ・がんについて知ったこと（がんは誰でもなりうる病気であるが、早期発見により治ることもある等）を家族に伝える。 ・家族の運動不足を解消するために、一緒に運動をする。 </div>	<p>○どの視点に対しての解決策なのかを明らかにして話し合いをさせる。</p> <p>※グループで話し合わせることで、様々な解決策があることに気付かせる。</p> <p>○今後の実践につなげるため、自分たちにできるかどうかを考えさせ、話し合った解決策をもとにまとめるようにさせる。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末 (決める) 12分</p>	<p>5 自分にできることを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>6 校長先生の話聞く。</p> <p>7 本時のまとめをする。</p>	<p>☆これまでに学習したことや話し合いを通して、自他の健康のためにできることを決定している。</p> <p>○早期発見や生活習慣の改善に関してめあてを書いている児童などを数名指名し、発表させる。</p> <p>○後悔だけでなく、今後につながる話をすることで、自他の健康について前向きに考え、実践していこうという態度の育成を図る。</p> <p>☆自他の健康と命の大切さについて主体的に考えている。</p> <p>※友達とのやりとりを通して、がんとどのように向き合っていくのか考えが深められるようにする。</p>	<p>ワークシート</p>

(3) 板書計画

11/6

がんについての理解を深め、自分にできることを考えよう。

つかむ

これまでの学習で分かっていること

- がんは、誰でもなる可能性がある。
- 早期発見により、治ることもある。
- 健康的な生活習慣による『予防』と定期検診による『早期発見』が重要である。

さぐる

がんをとりまく現状は？

上里町の実態

- 受診者数が少ない。
- がんについて正しく知る。
- 健康的な生活習慣を身に付ける。

見つける

解決策は？

決める

自分にできることは？

7 事後指導

児童の活動	○指導上の留意点	☆評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> • 自分の立てためあてや取り組みなどについて振り返る。 	<p>○友達同士で取り組みを確認し合う場を設け、悩みを共有したり励まし合ったりすることにより、実践の継続を図るようにする。</p>	<p>☆自分で考えた具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組んでいる。【思考・判断・表現】</p>

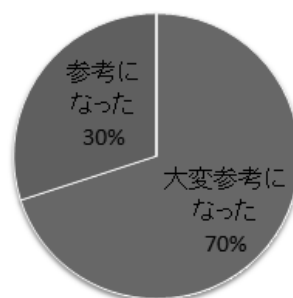
○授業内容について

- ・授業の中で、気持ちを動かし心を育てていく必要性を感じた。また、資料の豊富さに授業への思いを感じた。
- ・中学校でも保健の授業でがんについて学びますが、小学校から町のデータやがんの知識を学ぶことにより、スタートラインが早くからあることが素晴らしいと思った。
- ・小学校での取組を見ることができ、貴重な経験となった。
- ・がん教育を小学校でどのような内容で教えるのか、また配慮を要する児童がいた場合の対応など、とても参考になった。
- ・校長先生の体験談を子供たちが聞くことで、深く学べたと思う。私自身の心にも響いた。
- ・本時に至るまでの学習がまとめられており、ワークシートの内容も分かり易かった。
- ・グループでの話し合い活動で、子供らしい素直な意見が出されていたと思う。
- ・視覚的にとても分かり易く、また発問も短くまとめており、大変参考になった。
- ・それぞれのグループで調べ、友達や家族に伝えたいことをテーマに発表しており、調べただけで終わりではなく、新たな発見があったと思う。
- ・がんの授業ということで、児童に対してどのようにアプローチしていくことが良いのか分かり易く、今後に生かしたいと思った。
- ・がん教育を行うのはとても難しいと思っていたが、今日の授業やグループワークでの意見、長幡小学校の先生方のお話を聞いて、とても参考になった。本校でも取り組んでいきたいと思う。
- ・がん教育という難しいテーマの中でも、どの子にも学びを深めさせる機会を作れることを知った。子供の考えをつなげ、クラス全体で理解を深めていることが素晴らしかった。

【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・児童生徒一人ひとりの意思決定に迫る授業展開を図る必要があると思う。そのための働きかけや教師の知識等、工夫をしていかなければならないと思う。
- ・がん教育で取り扱う教材について、考えることが大切だと感じた。
- ・教科等横断的な取組にしていくために、年間指導計画にどのように位置づけるのかと、時数の確保が必要だと思う。
- ・「がんは治らない」というイメージから、治る確率が高くなっていること、予防ができることといった正しい知識を伝えていくことが大切だと思う。
- ・小学校から高等学校までの指導すべき内容を、教える側がしっかり把握しておくこと。
- ・子供たちが知識を得るだけで終わらず、実生活に生かしていけるか工夫していくことが大切だと思う。
- ・外部講師の効果的な活用方法について、学びたいと思った。

本日の授業研究会の内容について



2 川口市立戸塚中学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和2年度埼玉県「がん教育」授業研究会(中学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和2年11月19日(木)

4 会 場 川口市立戸塚中学校
川口市戸塚鉄町3-1

5 参加対象者 埼玉県がん教育授業検討委員会、埼玉県教育委員会、川口市教育委員会

6 日 程

(1) 受 付	午後1時50分～午後2時00分	(職員玄関)
(2) 開 会 行 事	午後2時10分～午後2時30分	(図 書 室)
(3) 公 開 授 業	午後2時45分～午後3時35分	(教 室)
(4) 授業者反省・指導講評	午後3時50分～午後4時30分	(図 書 室)

7 公開授業

学年	授業者	単元名
2年	川俣 泰幸 教諭	保健体育(保健分野) 「(1) 健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活行動・生活習慣と健康

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	参事兼課長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	新井 克仁
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	猿橋 武司
埼玉県教育局南部教育事務所	指 導 主 事	咲間 悟
川口市教育局学校教育部指導課	主幹兼指導係長	中川 猛
川口市教育局学校教育部指導課	指 導 主 事	米倉 孝輔

○埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
松伏町立松伏第二中学校	教 諭	中村 美紀
熊谷市立荒川中学校	養 護 教 諭	根岸 幸代
県立けやき特別支援学校	養 護 教 諭	川端 奏子

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和2年11月19日（木）第6校時 2年6組教室
第2学年2組 男子20名 女子20名
指導者 教諭 川俣 泰幸

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 (ウ) 生活習慣病などの予防

2 単元について

我が国において、がんは、昭和56（1981）年より死因の第一位であり、平成27（2015）年には、年間37万人が亡くなり、生涯のうちに、約2人に1人が罹患すると言われており「がん」が重要な健康課題となっている。平成28年12月には「がん対策基本法」が改正され、がん教育に関する条文が新たに盛り込まれた。また、改正法を踏まえ策定された「第3期がん対策推進基本計画」では、「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを目標としている。これまで学校では、健康の保持増進と生活習慣病などの予防といった視点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んできたが、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は、まだまだ不十分と言える。がんは身近な病気であるということを理解させ、がんの仕組みやがんの予防、早期発見・検診についての関心をもたせ、正しい知識を身に付けさせた上で適切な対処ができるようになることを目指す。

「健康な生活と疾病の予防」（本単元）では、人間の健康は、主体と環境が関わり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解させなければならない。また、健康と生活行動は深く関わっており、運動、食事、休養及び睡眠のそれぞれと健康との関係について理解させ、健康を保持増進するためには、調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解させる。さらに、不適切な生活習慣を若い年代から続けることによって、やせや肥満、生活習慣病を引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。本単元で扱う生活習慣病では、糖尿病、脳卒中、心臓病などを取り上げて扱い、その原因や予防について理解させる。「がんの予防」については、発生の仕組みなどの疾病概念、要因と予防、検診による早期発見について扱うこととする。

3 生徒の実態

本学級は、明るく和やかな雰囲気であり、良好な人間関係を構築できる生徒が多い。保健の授業に対する関心はおおむね高く、特に学習課題に対して自分の考えを仲間に伝えたり、グループで話し合って考えをまとめたりするような活動に積極的に取り組める生徒が多い。他教科の授業や保健分野の授業でも、知識構成型ジグソー法の手法を参考に、協働的な活動を取り入れた授業を何度か経験しており、個人で考えることに加えて、自分の意見や考えをグループ内で伝え合ったり、まとめたりすることに慣れている。しかし、一部の生徒は、仲間に自分の考えを伝えることを苦手としており、グループ活動での話し合いに貢献できない場面も見られる。また、学力差が大きく特に知識の定着度に大きな差が見られる。

事前アンケートの結果から見られる、がんに対する生徒の実態は以下の通りである。

Q1 あなたは「がん」についてどのような印象をもっていますか？（複数回答可）

- ・なかなか治らない病気 ・怖い ・重い病気 ・一度なってしまったら治らない病気
- ・治っても再発する ・抗がん剤の副作用が強い ・ステージがある ・転移する
- ・なったら死んでしまう ・誰でも発症する可能性がある ・進行したら治らない
- ・早期に発見できれば平気 ・子どもから大人まで関係なくかかる病気 ・早期発見が大切
- ・お酒やタバコでがんになる ・治療をする上で苦しいことが沢山ある ・生活しにくい
- ・体が不自由になる ・治る確率が低い ・種類が沢山ありそう ・一度の治療では治りにくい
- ・死を待つような病気 ・異常な細胞が引き起こす病気 ・一番直すのが難しい病気

Q2 「がん」は、治療できる病気だと思いますか？

- ・思う（9人） ・思わない（2人） ・治るものと治らないものがある（28人）

Q3 将来がんを見つけるために「がん検診」を受けてみようと思いますか？

- ・思う（32人） ・思わない（7人）

Q4 がんの学習は、健康な生活を送るために重要だと思いますか。

- ・思う（39人） ・思わない（0人）

Q5 がんは誰もがかかる可能性のある病気だと思いますか。

- ・思う（32人） ・思わない（7人）

Q6 自分はがんにならないと思いますか。

- ・思う（15人） ・思わない（24人）

Q7 家族や身近な人でがんにかかった人はいますか。

- ・いる（8人） ・いない（31人）

Q8 がんは進行すると今までの生活ができなくなると思いますか。

- ・思う（38人） ・思わない（1人）

Q9 がんは日本人の死因の第2位である。

- ・正しい（32人） ・正しくない（7人）

Q10 喫煙や飲酒などをせずに規則正しい生活を送っていれば、がんになることはないと思う。

- ・思う（17人） ・思わない（22人）

Q11 がんは予防できると思いますか

- ・思う（30人） ・思わない（9人）

Q12 がんについて学んだことを身近な家族に語ろうと思う。

- ・思う（11人） ・どちらかといえばそう思う（20人） ・思わない（8人）

Q13 がんは様々な種類がありますが知っている病名を書いてください。（複数回答可）

- ・肺がん（21人） ・脳がん（2人） ・皮膚がん（2人） ・小児がん（2人） ・胃がん（5人）
- ・乳がん（15人） ・すい臓がん（2人） ・骨肉腫（1人） ・前立腺がん（1人）
- ・白血病（1人） ・肝臓がん（2人） ・大腸がん（1人） ・子宮がん（1人）
- ・心臓がん（4人）

がんの学習について、「重要だと思う」と回答している生徒が100%であり、全ての生徒が肯定的な回答をしていた。がんについての知識はおおむね正しい回答をしているものの、「日本人の死因の順位」「がんの要因」については、他の設問と比較し誤答が多かった。

82.1%の生徒が「がんはだれもがかかる病気である」と回答しているが、38.4%の生徒は「自分はがんにならない」と回答している。また、17.9%の生徒が「将来、検診を受けない」と回答している。

以上の結果から、がんに対してある程度の知識はあるものの、正しい理解には至っておらず、自分自身の生活とは無関係だと思っている生徒もいることがわかった。

4 教師の指導観

今回の学習を通して、「がん」についての正しい知識を身に付け、自分が描く将来に向けて「がん」の予防も含めた自分なりの生活習慣を確立させるなど、健康の保持増進について主体的に取り組む態度を育成していきたい。

がんは身近な病気であるにもかかわらず、多くの生徒が正しく理解できておらず、自分事として捉えられていない。また、健康である生徒が、健康の大切さを自分事として実感することは難しい。しかし、生活習慣病などは自分自身の生活と関わりが深い問題であり、その予防のためには、適切な生活習慣を身に付けることが有効であることから、指導に当たっては、自分の生活を振り返らせ、生活習慣病の要因になりそうなものを生徒同士で交流する中で、予防に取り組んでいくことにつながるよう学習を展開していく。

本単元では、生徒が今後の人生の中で、「がん」の問題が自分自身や自分の身近な人にも関わりのある問題であることを知り、望ましい生活習慣を続けたり、がんの予防のために自ら行動したりすることができるようになることを目指す。そこで、学習した「がん」についての知識をアウトプットしたり、グループで話し合いをしたりすることで、学習内容を関連付け、生涯にわたって健康を保持増進していくための意識や生活習慣を身に付けることができるようにしていく。

5 単元の目標

- (1) 生活習慣病などの予防について、理解することができるようにする。 (知識)
- (2) 生活習慣病などの予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 生活習慣病などの予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。	① 生活習慣病などの予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ② がんの仕組みや予防、早期発見について学んだことを筋道立てて伝え合ったり、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動について考えたことをワークシートにまとめたりしている。	① 生活習慣病などの予防について、課題の解決に向けての対話や、教科書や資料を調べたり、自他の生活を振り返ったりするなどの学習に自主的に取り組もうとしている。

(2) 単元の指導と評価の計画

時	学習のねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態	評価方法
1	I ねらい ・生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できること、不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることについて、理解することができるようにする。	①			<知・技①> (学習活動2) 調和のとれた生活と生活習慣病について理解したことを言ったり、書き出したりしている

病 の 予 防 ①	<p>II 学習活動</p> <p>1 望ましい生活習慣について考える。</p> <p>2 健康と生活習慣の関連、調和のとれた生活の必要性、生活習慣の乱れによる生活習慣病など、生活習慣が健康に及ぼす影響について説明を聞く。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>			内容等を【観察・ワークシート】で捉える。
2 生 活 習 慣 病 の 予 防 ②	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見することができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <p>1 前時の授業を振り返る。</p> <p>2 今後実践できる生活習慣の改善について考え、発表する。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>		①	① <思・判・表①> (学習活動2) 生活習慣病の予防について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している状況等を【観察・ワークシート】で捉える。 <態①> (学習活動2・3) 課題の解決に向けての対話や、教科書や資料を調べたり、自他の生活を振り返ったりするなどの学習に自主的に取り組もうとしている状況等を【観察】で捉える。
3 が ん の 予 防 ①	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることについて、理解したことを言ったり、書き出したりすることができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <p>1 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」についてそれぞれのグループに分かれ動画をみて正しい知識を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、それぞれの資料を読み解く。 <p>2 自分の考えや他者の意見を伝え合い、課題についての考えを深めていく。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、次時の流れを確認する。</p>	②		<知・技②> (学習活動12) がんについて理解したことを言ったり、書き出したりしている内容等を【観察・ワークシート】で捉える。

<p>4 が ん の 予 防 ② 本 時</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについて学んだことや資料から読み取れることを筋道を立てて伝え合うことで、がんについての知識を深め、「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめることができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時を振り返り、本時のめあてを知る。 2 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、それぞれ資料の説明や担当した課題から読み解いたことを伝え合い、わからなかったことは質問する。 ・ メモをもとにワークシートをまとめる。 3 がんについて学んだことをもとに「現在」及び「将来」自分にできること、「学習を終えてがんについてどんなイメージを持ったか」ワークシートにまとめる。 4 教師の話聞く。 		②	①	<p><態①> (学習活動2) がんの仕組みや予防、早期発見について、資料を結び付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組もうとしている状況等を【観察】で捉える。</p> <p><思・判・表②> (学習活動3・4) 学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめたり、がんのイメージに変容が見られたかについて考えたりしている状況等を【観察・ワークシート】で捉える。</p>
--	---	--	---	---	---

7 本時の学習と指導 (4/4)

(1) ねらい

- ・ 学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめた
り、がんのイメージに変容が見られたかについて考えたりすることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ がんの仕組みや予防、早期発見について、学んだことを筋道立てて伝え合ったり資料を結び
付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 準備 TV、パソコン、ワークシート、資料

(3) 展開

時間	学習内容・活動		指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 (5分)	1 前時の振り返り、活動の流れを確認する。 ・ 本時のめあてを知る。	全体	○前時までの学習の流れを確認する。 ○本時の目的を理解させ、学習の見通しを持たせる。 ○授業中に気持ちが辛くなってしまうようなことがあれば、遠慮なく申し出るように伝える。
【学習課題】 がんについて学んだことをもとに、自分の生活習慣や今後の行動に生かせるようにしよう。			
展開 (40分)	2 「がんの仕組み」「がんの予防」「がんの早期発見」について、資料や担当した課題から読み解いたことを伝え合い、わからなかったことは質問する。 (各3分×3) ※他者の説明を聞きながらキーワードをメモする。 ○3つの資料を結び付けて分かったことや感じたことを話し合いワークシートに記入し発表する。 (15分)	グループ	○資料を適切に活用し、学んだことが相手に伝わるように説明するよう促す。 ○グループ内での発表をしっかりと聞き、他者の意見からキーワードとなりそうなことをメモさせるようにする。 ○グループの中で積極的に意見を出し合いながら課題に対する答えを考えることが出来るように机間指導をしながら、話し合いが深まるように促していく。 ○机間指導の際、自分なりの考えをまとめている生徒をピックアップし、発表させる。 ◆がんの仕組みや予防、早期発見について、資料を結び付け他者と協力したりして学習に自主的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 「努力を要すると判断される状況」 (C)の生徒への手立て(支援) 机間指導を行いながら、資料を振り返らせるなど、気づきを促すための声かけを行っていく。 「十分満足できると判断される状況」 (A)の生徒の具体的な姿 グループ活動で、自分の意見を積極的に発言するとともに、他の意見を取り入れ、より良い課題解決の方法を考えている。

	<p>3 がんについて学んだことをもとに「現在」及び「将来」自分にできること、「学習を終えてがんについてどんなイメージを持ったか」ワークシートにまとめ、発表する。(10分)</p>	個人	<p>○がんの学習を行う前と後で変容が見られたか、学習の成果を自ら感じられるようにする。</p> <p>◆学んだことを生かし自分の「現在」及び「将来」の生活習慣や行動をワークシートにまとめたり、がんのイメージに変容が見られたか考えたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 机間指導を行い、自分の考えがまとめられるようにキーワードを伝え学習を整理できるようにし、自分の「現在」及び「将来」の生活習慣に結びつけることができるようにする。 「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 「がん」の要因は様々なものがあるが、中でも生活習慣は自分自身で改善できる予防法であること。また、誰でもがんになる可能性があるので、がん検診が大切であることを踏まえ、学習したことを基に、「現在」及び「将来」の具体的な対策についてワークシートに記入している。</p>
まとめ(5分)	4 教師の話聞く。	全体	<p>○本時のまとめを行い、がんの発生要因は、様々であることから「がんになった人」イコール「生活習慣が乱れている人」ではないことを伝える。しかしながら、予防として私たちにできることは、がんを予防するための望ましい生活習慣と早期発見・早期治療であることについて、再確認する。</p> <p>○ワークシートを回収し、まとめた内容についての補足や指導の必要な生徒には、個別に指導する。</p>

8 事後指導

本単元終了後、ゲストティーチャーを招き、「なぜ、がんについて学んだのか」「がんになったときに(がんになった身近な人に対して)どう向き合っていくか」について、講話していただく。その際、本来であれば高等学校での学習内容であるがん患者や周囲の人々の生活の質を保つことや、緩和ケアについても触れていただくことで、今回の学習をここで閉じるのではなく、生徒の将来を見据えた学習として位置付けたい。また、講話を特別活動の授業として、未来につながる学びへとつなげていく。

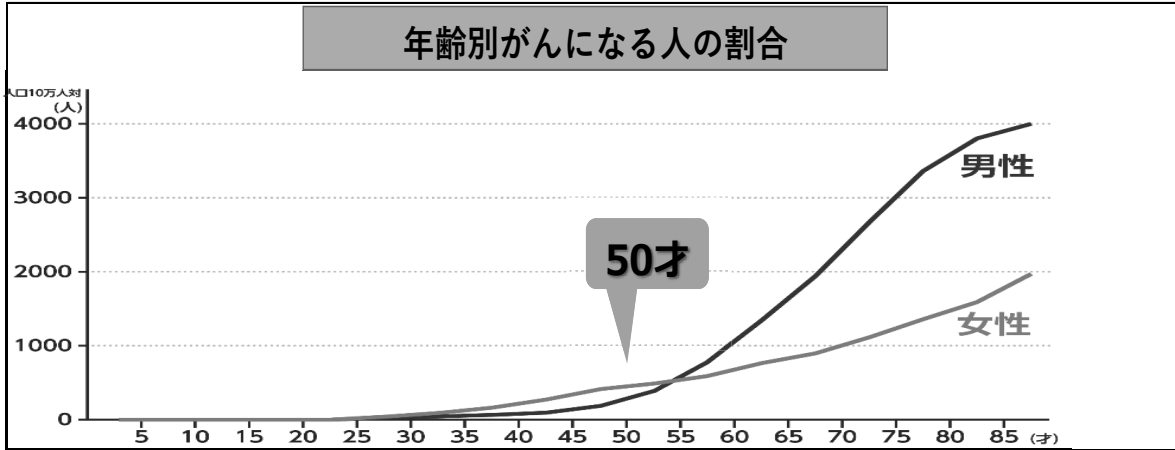
がんの仕組み

組 番 氏名

①動画や資料を見てキーワードを使いまとめよう

	
<p>キーワード 40兆個 細胞分裂 遺伝子情報 コピー</p>	<p>キーワード コピーミス 老化 免疫 増殖</p>
<p>セルフトーク</p>	<p>セルフトーク</p>
<p>発表原稿</p>	<p>発表原稿</p>

②資料から読み取れることを2つ以上考えよう



セルフトーク
エキスパート活動 (発表原稿)

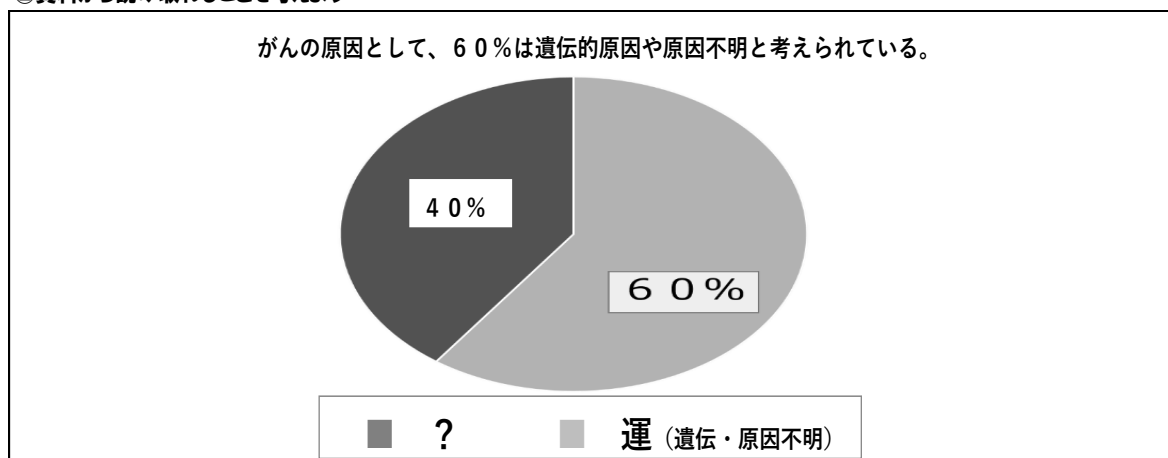
がんの早期発見

組 番 氏名

①動画や資料を見てキーワードを使いまとめよう

<p>がんの進行と自覚症状が出るまで</p> <p>10~20年 1つのがん細胞が1cmの大きさになる</p> <p>1~2年 2cmになる</p> <p>自覚症状の出現</p>	<p>がんの進行度と5年生存率の関係</p> <p>100% 90% 80% 70% 60% 50% 40% 30% 20% 10% 0</p> <p>検診で見つかる大きさ</p> <p>症状が出はじめる</p> <p>1期 2期 3期 4期</p>
<p>キーワード 10年~20年 1年~2年 がん検診 セルフトーク</p>	<p>キーワード 90% 20% 早期発見 セルフトーク</p>
<p>発表原稿</p>	<p>発表原稿</p>

②資料から読み取れることを考えよう



<p>セルフトーク</p>
<p>発表原稿</p>

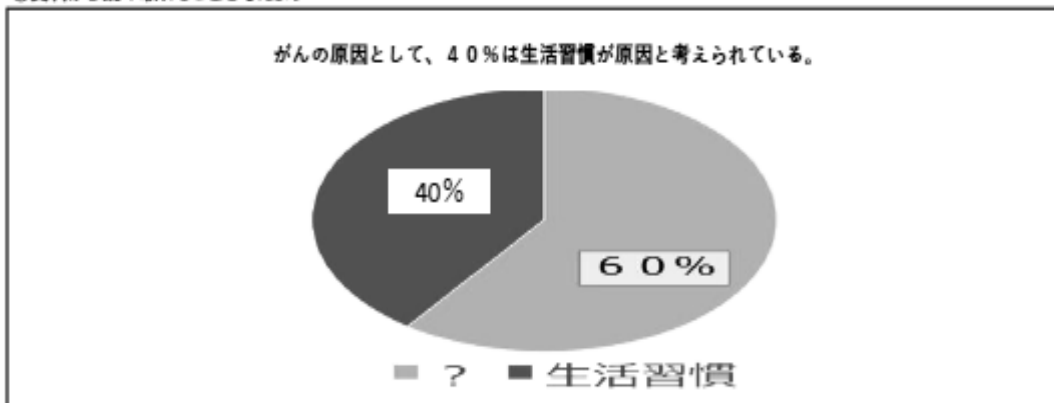
がんの予防

組 番 氏名

①動画や資料を見てキーワードを使いまとめよう

	
<p>キーワード 喫煙習慣 過度の飲酒 セルフトーク</p>	<p>キーワード 感染症 規則正しい生活 免疫力 セルフトーク</p>
<p>発表原稿</p>	<p>発表原稿</p>

②資料から読み取れることを考えよう



<p>セルフトーク</p>
<p>発表原稿</p>

3 県立栗橋北彩高等学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和2年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和2年10月23日（金）

4 会 場 県立栗橋北彩高等学校
久喜市伊坂1番地

5 参加対象者 高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

6 日 程

- (1) 受 付 午後1時00分～ (会議室)
- (2) 公開授業 午後1時30分～午後2時20分 (3F 化学実験室)
- (3) 全体会 午後2時30分～午後2時45分 (会議室)
- (4) 研究協議 午後2時45分～午後4時30分 (会議室)

7 公開授業

学年	授業者	単元名
1年	黒崎 直樹 教諭	保健体育（科目保健） (1)「現代社会と健康」 イ 健康の保持増進と疾病の予防 (ア) 生活習慣病と日常の生活行動

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	参事 兼 課長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主任指導主事	遠井 学
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	猿橋 武司

○埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
県立新座高等学校	教 諭	大屋 将人
県立杉戸高等学校	養 護 教 諭	米本 真弓
県立けやき特別支援学校	養 護 教 諭	川端 奏子

保健体育科 (科目保健) 学習指導案

令和2年10月23日(金) 第5時限 化学実験室

第1学年1組 男子18名 女子15名

指導者 黒崎 直樹

1 単元名 (1) 現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防 「生活習慣病と日常の生活行動」

2 単元について

本単元は、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

また、「イ 健康の保持増進と疾病の予防」では、以下の学習内容を生徒に理解させる。

①生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であること。悪性新生物、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げ、それらは日常の生活行動と深い関係があること。

②喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること。喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、および法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であること。

③コカイン、MDMAなどの麻薬、覚せい剤、大麻など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して様々な影響を及ぼすので、決して行ってはならないこと。薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、および法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であること。

④感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること。感染症の予防には、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること。

3 生徒観 (学習状況の実態)

生徒同士の仲が良く、物事に対して協力的に取り組み、発言する生徒が多く見られるクラスである。授業で毎時間話し合い活動を行っているが、積極的に議論できる生徒とそうではない生徒がおり、二極化している様子がみられる。また、集中した取り組みを継続する力が不足しているため、画像・映像や実際の物を見せるなど視覚に訴えた教材を用いることで、興味・関心をもって学習できるようにしている。

がんについて学習することは初めてで既有知識・理解に差があるため、生徒の理解度に応じた授業を展開する。

4 教師の指導観

がん教育の目標「がんについて正しく理解することができるようにする」、「健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」を学習することで、健康の保持増進のために自らの生活習慣を改善していく能力を育てる。がんについて学習することだけを目的とせず、自他の健康に関心を持ち、明るく豊かで活力ある生活を営むこと、そして、自分だけでなく自分の周りの人もがんや疾病に罹患する可能性があり、その予防法や罹患した場合の対応も含めて学習させたい。以下、具体的な手立てとして3点を挙げる。

I 学習(指導)内容の明確化

学習内容を理解させ、深めるために2時間扱いとした。

・1時間目：がんの基礎的・基本的知識の習得

がんの要因・種類・経過、我が国のがんの状況などについて、がんは誰にでも起こりうるものであることなど、がんについての基礎的・基本的知識を習得させる。

・2時間目：がんを予防し、がんとともに生きるための行動の選択

既習知識を活用して周りとは話し合うことで理解を深めさせる。がんは誰にでも起こりうるものであることから、自他の健康のために自らがとるべき行動を考え、選択させる。

II 基礎的・基本的知識の習得と知識を活用する学習活動の実践

1 時間目の活動では、一斉教授型の授業スタイルでがんに関する基礎的・基本的な知識の習得を目指す。2 時間目の活動では、1 時間目で学習したがんについての知識を活用して、対話的な活動を行い、指導のねらいである「がんを予防し、がんとともに生きるための行動の選択」を実現できるようにする。

III 学習内容を主体的に取り組ませるための教材の工夫

・ICTの活用

本時では、プレゼンテーションソフトを活用して授業を展開する。利点として、豊富な情報を効率的に生徒に提供できること、視覚的に見やすくわかりやすいため生徒の理解の促進につながることで、板書する時間を省略し生徒の活動時間を確保できること、提示し続けることで生徒が思考する際の手助けとなることなどが挙げられる。

・資料の工夫

配布する資料を色付きで作成し、生徒が興味・関心を持ちやすいよう工夫することで、学習意欲の向上につながる。また、グラフや写真等の視覚に訴える資料の提示により、生徒の思考を促す一助となる。

5 単元の目標

- (1) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【思考・判断】
- (3) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解できるようにする。 【知識・理解】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価規準	<p>○生活習慣病と日常の生活行動について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>○喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>○生活習慣病と日常の生活行動について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。</p> <p>○喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したり、評価したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>○健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること、喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、喫煙と飲酒、薬物乱用の対策には、個人や社会環境への対策が必要であること、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、感染症の予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>

学習活動に即した評価規準	<p>①生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②課題解決のために教科書や配布資料から情報を集めたり、調べたり、発言したりしようとしている。</p> <p>③課題の解決に向けてのグループ学習で、自己の役割に責任をもち取り組もうとしている。</p>	<p>①生活習慣病と日常の生活行動について資料等で学んだことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。</p> <p>②学習したことを、個人及び社会生活や事例と、比較や分析、評価したうえで、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>①がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>②生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>③喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>④薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>⑤感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>
--------------	---	--	---

(2) 単元の指導と評価の計画 (6時間扱い) 本時2/6時

時	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 生活習慣病と日常の生活行動Ⅰ	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組むことができる。 がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣、細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりできる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本人の死因について考える。 がんの基礎的知識について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> がんとは何か。 がんに関与する要因について。 がんの種類について。 我が国のがんの現状について。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣、細菌やウイルスの感染などの原因もあること。誰にでもがんにかかる可能性があり、早期発見・早期治療をすれば治る確率が高いこと。 	①		①	<p>【関・意・態①】 (学習活動2) 生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組もうとしている。 (観察・ワークシート)</p> <p>【知・理①】 (学習活動2) がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 (観察・ワークシート)</p>

<p>② 生活習慣病と日常生活行動Ⅱ</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と日常生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけることができる。 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 がんと生活習慣の関係について考える。 がんの早期発見とがん検診の重要性を学習する。 自他の健康に配慮した行動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 2、3で学習したことをふまえて個人で考え、メッセージカードにまとめる。 発表をする。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> がんは誰にでも起こりうるものである。罹患の危険性を減らすために、生活習慣の改善を図るなど、いまの自分にできることを心がけることが必要であること。 日頃の生活習慣の中で、がんに罹る原因となるものは何かを判断すること。 定期的に健康診断やがん検診などを受診することが、がんを早期発見し、治す可能性を高めること。 			<p>① ②</p>	<p>【思・判①】 (学習活動2) 生活習慣病と日常生活行動について資料等で学んだことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。 (観察・ワークシート)</p> <p>【知・理②】 (学習活動4) 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解したことを発言したり、記述したりしている。 (観察・ワークシート)</p>
<p>3 喫煙・飲酒と健康Ⅰ</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 喫煙は、生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動 (知識構成型ジグソー法)</p> <ol style="list-style-type: none"> たばこに対するイメージ。 エキスパート活動。 <ol style="list-style-type: none"> 日本の販売状況、喫煙率について。 たばこによる悪影響について。 日本の喫煙に対する対策。 喫煙・禁煙の実態。 ジグソー活動。 「たばこの箱の警告表示を考えよう。」 クロストーク。 喫煙に関する個人的・社会的な対策についてまとめる。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 喫煙は、生活習慣病など個人だけでなく周囲への悪影響にもなりうるものである。そのため、個人や社会環境への対策が必要であること。 	<p>②</p>	<p>③</p>	<p>【関・意・態②】 (学習活動3) 課題解決のために教科書や配布資料から情報を集めたり、調べたり、発言したりしようとしている。 (観察・ワークシート)</p> <p>【知・理③】 (学習活動4) 喫煙は、生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 (観察・ワークシート)</p>	

<p>4 喫煙・飲酒と健康Ⅱ</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒は生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 ・学習したことを、個人及び社会生活や事例と、比較や分析、評価し、筋道を立ててそれらを説明することができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本でのお酒の販売状況について。 <ul style="list-style-type: none"> ・どれがお酒に見えるか？ 2 お酒とは何か。ノンアルコール飲料との違い。 3 アルコール分解の流れ。 4 飲酒に対するイメージ。 5 飲酒による個人的・社会的影響。 6 なぜ大人は飲酒するのか。 7 お酒との付き合い方。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒は生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であること。 		<p>②</p>	<p>③</p>	<p>【思・判②】 (学習活動5) 学習したことを、個人及び社会生活や事例と、比較や分析、評価したうえで、筋道を立ててそれらを説明している。 (観察・ワークシート)</p> <p>【知・理③】 (学習活動7) 飲酒は、生活習慣病などの要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 (観察・ワークシート)</p>
<p>5 薬物乱用と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 ・喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、課題解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物の俗称。 2 薬物の種類。 3 危険ドラッグとは。 4 薬物乱用による健康への影響。 5 薬物乱用開始の要因と、薬物乱用による社会的問題。 6 身近に潜む薬物。 <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用を防止するためには (ロールプレイング)。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから、行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であること。 	<p>③</p>		<p>④</p>	<p>【関・意・態③】 (学習活動4) 課題の解決に向けてのグループ学習で、自己の役割に責任をもち取り組もうとしている。 (観察・ワークシート)</p> <p>【知・理④】 (学習活動6) 薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 (観察・ワークシート)</p>

<p>6 感染症とその予防</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本の死因の変遷。 2 免疫とは。 3 感染・発病について理解する。 4 感染症の定義について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症について。 ・再興感染症について。 5 感染症の発生と流行について理解する。 6 感染症の予防について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的対策について。 ・個人的対策について。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。 	<p>③</p>		<p>⑤</p>	<p>【知・理⑤】 (学習活動6)</p> <p>感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>〈観察・ワークシート〉</p>
-----------------------	--	----------	--	----------	---

7 本時の学習と指導 (2/6)

(1) ねらい

- 生活習慣病と日常の生活行動について資料等で学んだことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。 **【思考・判断】**
- 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 **【知識・理解】**

(2) 資料及び準備するもの

スクリーン、プロジェクター、ノートパソコン、ワークシート、メッセージカード、移動式黒板

(3) 展開

時間	学習の内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 5分	1 挨拶・出席確認。	○挨拶をし、出欠、座席を確認する。 ○前時の内容「がん」の基礎知識等について要点を絞って確認する。
	2 前時の振り返りをする。 ・がんとは何か。 ・我が国のがんの現状について。 ・がんに罹る要因について。 ・がんの早期発見について。	
	課題 がんの知識を学び、予防のために何ができるか考えよう。	
展開 35分	3 本時の説明と確認。	○プレゼンテーションソフトの画面を提示して説明を行う。 ○本時の学習の内容と流れを理解させる。
	4 がんと生活習慣の関係について学習する。 【発問】 がんに罹らないための行動には何かあるか。 ・個人の考えをワークシートに書く。 ↓ ・グループで話し合い、考えをワークシートに書く。	○机間指導で学習の支援を行う。 ○前回の授業を踏まえて考えるよう伝える。 ○個人の考えをワークシートに記入して一人ひとりに考えさせたあと、グループワークを行わせる。 ○一人ひとりの考えを全員が伝えたあと、対話させ、意見をまとめさせる。 ○がんは誰にでもかかる可能性があることを踏まえて、実生活の行動から挙げさせる。 ○自分自身、がんにかかる可能性があることを理解させ、がんは身近なものであることを感じさせる。 ○がんの予防と生活習慣が関係していることを理解させる。 ◆生活習慣病と日常の生活行動について資料等で学んだことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。 【思考・判断】 「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て △気づきをうながすような声かけを続ける。 △前時の授業内容を確認するように声かけをする。 △自信のある答えを発言してみるように促す。 「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿 ○前時の授業で得た知識と実際の生活行動を結び付けて、自分の考えを発言している。 ○周りの意見をメモするなど、自分の考えに取り入れている。

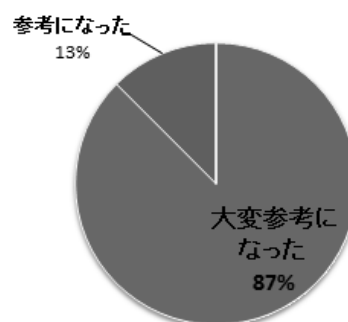
	<p>5 がんの早期発見とがん検診の重要性を学習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【発問】 がん検診受診率が50%以下である。なぜがん検診を受けない人が多いのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えをワークシートに書く。 <li style="text-align: center;">↓ ・グループで話し合い、考えをワークシートに書く。 <p>6 自他の健康に配慮した行動を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【発問】 自分の大切な人(家族・友人・身近な人)に対して、がんの予防に取り組むようなメッセージを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えをメッセージカードに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは誰にでも起こりうるものだが、罹患の危険を減らすために、生活習慣の改善を図るなど、今の自分にできることに取り組むことが必要であること。 ・生活習慣の中で、がんに関与する原因となるものは何かを判断すること。 ・定期的に健康診断やがん検診などを受診することが、がんを早期発見し、治す可能性を高めること。 </div> <p>7 発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の考えをワークシートに記入して一人ひとり考えさせたあと、グループワークを行わせる。 ○一人ひとりの考えを全員が伝えたあと、対話させ、意見を出させる。 ○がん検診の重要性や正しい知識が定着していないこと、自身の健康を楽観視している傾向がある現状を理解させる。 ○がんは早期に発見することで治る可能性が高いこと、定期的な健康診断やがん検診などの重要性を理解させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> △資料や前時のプリントを参考にしてよいことを伝える。 △気付きを促す声かけを続ける。 △グループの中で分からないことを聞くよう声かけをする。 <p>「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、他者へ発言したり具体例を挙げたりすることができている。 ○周りの意見をメモするなど、自分の考えに取り入れている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○机間指導で学習の支援を行う。 ○4、5で学習したことを踏まえて、自分なりの考えが書けるようにさせる。 ○がんの原因や予防法、早期発見の重要性を学び、具体的な生活習慣の改善を考えさせることで、がんの発症や進行を遅らせることができることを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 【知識・理解】</p> </div> <p>○個人で考えた内容をクラス全体で共有する。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>8 課題に対するまとめをワークシートに記入する。</p> <p>9 本時のまとめ・反省、次回の予告。</p> <p>10 挨拶。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対する答えと理由を、本時の学習内容と既有知識をもとに考えさせ、ワークシートに記入させる。 ○がんは誰にでも起こりうるもので、生活習慣の改善を図るなど今の自分にできることに取り組むことが、がんの発症や進行を遅らせること。がん検診や健康診断を受診することが、がんを早期発見し治す可能性を高めることを再確認させる。 ○本時の活動の様子について評価し、次回授業の予告をする。 ○全員でしっかりと挨拶を行わせる。

令和2年度がん教育授業研究会（県立栗橋北彩高等学校）アンケート結果

○授業内容について

- ・ICTを上手に使い授業をされていて、生徒の関心も高いだろうと参考にさせていただく点が多かった。生徒の発言も多く素晴らしかった。
- ・ねらいが明確であり、生徒の活動も分かりやすい計画であったため、とても参考になった。生徒のメッセージカードの内容を見ると、本時のねらい通りのところが達成されていると感じた。
- ・本時の授業を通して、グループワークでがん教育についての協議ができたことがとても有意義だった。コロナ禍での授業研究会の開催は大変だったと思いますが、face to faceでの研修会は大切だということも改めて実感した。
- ・導入の前時の振り返りから本時の授業展開までがスムーズに行われていて、ねらいや課題解決に進む上でとても理解しやすいと感じた。
- ・個人で考えさせ、グループで話し合いをさせる形式にすることで、深い学びにつなげていた。
- ・見通しの良い授業だったと感じた。時間配分も適切だったことから、生徒が集中して楽しく取り組んでいた。今回のことを活かして授業をしていきたい。
- ・メッセージカードは、具体的な相手がいることで、がんを現実的に捉えられていた。
- ・プロジェクターとホワイトボードを合わせて活用することで、難しい内容を指導できていたように感じた。そのおかげで、本時の際笑顔で話し合いや自分の意見をまとめられていた。
- ・ねらいを明確にし、生徒がこの授業で学ぶことがしっかり分かっていたので、最後の大切な人へのメッセージカードを書く際に、生活習慣を整え、検診を受けることで95%は治せることを理解して、自分の言葉で書くことができていた。
- ・がんに重点を置いて生徒たちが話し合い、考える授業を見学できてとても参考になった。
- ・生徒が他人事ではなく、自分の大切な人や自分自身に対して最終的に「何ができるのか」、「どうしてほしいのか」を考えていたので良かった。
- ・授業の進みを見て、とても考えて作られていたものだと感じた。生徒の意見にスポットライトを当てている様子がとても素敵だと思った。

本日の授業研究会の内容について



【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・教員間でのがんに対する意識。（共通理解） ※多数あり
- ・保健の授業だけでなく、他教科、外部との連携が必要。
- ・がんという生徒たちにとって身近なようで他人事になってしまう病気について、伝えることの難しさ。
- ・より実生活に活かすために、生徒の実態に応じた内容を取り上げること。 ※多数あり
- ・教師自身が最新の正しい知識を身に付けること。
- ・養護教諭との連携。
- ・エビデンスデータの活用方法。
- ・教員同士が共通の認識をもって指導にあたること。
- ・各専門機関との連携。

IV 令和2年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

1 令和2年度埼玉県「がん教育推進連絡協議会」設置要綱

(設置)

第1条 学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(事業)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

- (1) がん教育総合支援事業を推進するための支援体制の協議、検討
- (2) がん教育総合支援事業を推進するために係るその他の取組

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。
- 3 協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

(運営)

第4条 委員長は、協議会を総括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、令和3年2月26日までとする。

(会議)

第6条 委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

- 2 委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

(事務局)

第7条 協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

(経費)

第8条 協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、令和2年6月17日から施行する。 ※国との契約の日とする。

別 表 (第3条関係) 委員

学識経験者
医師
がん経験者
疾病対策課副課長
校長
教諭
養護教諭
市町村教育委員会指導主事
保健体育課長
保健体育課主席指導主事

令和2年度 がん教育総合支援事業

(文部科学省委託事業)

背景

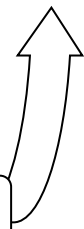
- ・「がん対策推進基本計画」では、「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに向き合えない社会」をめざすこととしている。
- ・学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校においては、がんについても取り扱うこととされ、移行期間中に新学習指導要領の対応を検討する必要がある。

年間約36万人以上の国民ががんで死亡している。
埼玉県のがん検診受診率が50%未満である。

課題

- ・がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- ・教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、



がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

がん教育推進連絡協議会

- ・新学習指導要領に対応したがん教育に関する計画作成について指導・助言をする。
(教科、授業展開方法の検討 ・ 外部講師の活用体制の整備 ・ 関連機関との連携等)
- ・取組結果について、成果を検証する。
※がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、小・中学校、県立学校等へ配布

【構成委員22名】

学校関係者、学校医、医療機関関係者、学識経験者、がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

○がん教育を推進していく教職員・外部指導者を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

○小学校、中学校、高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と指導資料の作成及び授業モデルの普及を行う。

がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。
健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理する資質能力を育成する。

2 令和2年度がん教育推進連絡協議会委員名簿

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人埼玉県医師会	丸木 雄一	医師	埼玉精神神経センター
3	がん専門医	儀賀 理暁	教授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	近藤 明美	社会保険労務士	近藤社会保険労務士事務所
5	埼玉県公立小学校校長会	長井 圭子	校長	越谷市立大沢小学校
6	埼玉県中学校校長会	加松 浩	校長	熊谷市立富士見中学校
7	埼玉県高等学校長協会	梶尾 勝則	校長	県立越ヶ谷高等学校
8	埼玉県小学校体育連盟	栗田 顕	教諭	深谷市立深谷西小学校
9	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教諭	松伏町立松伏第二中学校
10	埼玉県高等学校保健体育研究会	大屋 将人	教諭	県立新座高等学校
11	埼玉県養護教諭会	小林 牧葉	養護教諭	所沢市立安松小学校
12	埼玉県養護教諭会	根岸 幸代	養護教諭	熊谷市立荒川中学校
13	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸高等学校
14	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
15	授業検討会代表（小学校）	櫻井 達夫	室長補佐兼指導主事	上里町教育委員会学校教育指導室
16	授業検討会代表（中学校）	米倉 孝輔	指導主事	川口市教育委員会学校教育部指導課
17	県保健医療部疾病対策課	矢萩 義則	副課長	県保健医療部疾病対策課
18	県立学校部保健体育課	伊藤 治也	参事兼課長	県教育局県立学校部保健体育課
19	県立学校部保健体育課	新井 克仁	主席指導主事	県教育局県立学校部保健体育課

3 令和2年度がん教育授業検討委員会 名簿

○小学校、中学校、高等学校において、がん教育を具体的に展開するための内容等を検討する。

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	がん専門医	儀賀 理暁	教授	埼玉医科大学総合医療センター
3	埼玉県小学校体育連盟	栗田 顕	教諭	深谷市立深谷西小学校
4	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教諭	松伏町立松伏第二中学校
5	埼玉県高等学校保健体育研究会	大屋 将人	教諭	県立新座高等学校
6	埼玉県養護教諭会	小林 牧葉	養護教諭	所沢市立安松小学校
7	埼玉県養護教諭会	根岸 幸代	養護教諭	熊谷市立荒川中学校
8	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸高等学校
9	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
10	授業検討会代表（小学校）	櫻井 達夫	室長補佐兼指導主事	上里町教育委員会学校教育指導室
11	授業検討会代表（中学校）	米倉 孝輔	指導主事	川口市教育委員会学校教育部指導課
12	授業研究者（小学校）	矢内 里美	教諭	上里町立長幡小学校
13	授業研究者（中学校）	川俣 泰幸	教諭	川口市立戸塚中学校
14	授業研究者（高等学校）	黒崎 直樹	教諭	県立栗橋北彩高等学校